

湯 牟 田 遺 跡
(一 次 調 査)
Yumuta Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書15

2005

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した川南町所在の湯牟田遺跡は、平成13年度から平成14年度にかけて発掘調査を行ったものです。調査によって旧石器時代の礫群、古代から近代にかけての道路状遺構が検出され、当該期の石器や土器も出土しました。特に古代以降の交通路として頻繁に利用されてきた痕跡が少なからず確認されたことは、調査の大きな成果といえるでしょう。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。



平成17年3月

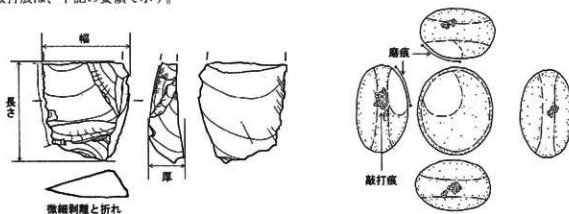
宮崎県埋蔵文化財センター
所長 宮園 淳一

例 言

1. 本書は、平成13・14年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は日本道路公団から委託を受けて宮崎県教育委員会が実施した。
3. 現地での実測等の記録は、都成 量・山下健一・高橋浩子・高木祐志・金丸史絵が行ったほか発掘作業員が補助した。
4. 本書使用の遺物実測図は、都成 量が行ったほか発掘作業員が補助した。また石器実測の一部を熊本九州文化財研究所に委託した。
5. 本書で使用した実測図等の浄書は、都成 量が行ったほか発掘作業員が補助した。
6. 本書で使用した遺構等の写真については都成 量・山下健一・高橋浩子・高木祐志・金丸史絵が行い、遺物写真については、都成 量が本センターの今塩屋毅行の協力を得て撮影した。
7. 測量・空中写真・理化学的分析等は、次の機関に委託した。
地形測量・グリッド杭設定：南久保田測量設計
空 中 写 真：熊本九州航空
テフラ分析・植物珪酸体分析：熊本環境研究所
8. 本書に使用した略記号は次のとおりである。
SG …… 道路状遺構 SE …… 溝状遺構 SI …… 礎群
9. 本書に使用した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1図をもとに、また遺跡周辺地形図等は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供の1千分の1図をもとに作成した。
10. 本書で用いた標高は海拔高であり、方位は、座標北（G. N.）を基本とし、位置図等の一部に、磁北（M. N.）を使用した。
11. 本書で使用している国土地標は、旧平面直角座標系Ⅱ（日本地理系）によった。
12. 土器の色調及び土層については、農林省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に準拠した。
13. 出土遺物の石材については本センターの赤崎広志、宮崎県総合博物館の松田清孝の協力を得て、都成 量が行なった。
14. 本書の執筆編集は、都成 量が担当し、最終編集並びに推敲は、金丸琴路・吉富俊文・長津宗重・谷口武範が行った。
15. 出土遺物、その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

1. 本遺跡では、全調査区を北からA区～C区に分けて表記している。
2. 遺物実測図の挿図の縮尺は次のとおりである。
 - ・ 基本的な縮尺 …………… 2/3 ・ 最大長が10cm以上の石器 …………… 1/2
 - ・ 須恵器、陶磁器 …………… 1/3 ・ 台石 …………… 1/4
3. 遺物実測図以外の挿図の縮尺は次のとおりである。
 - ・ 遺跡周辺図 …………… 1/4000、1/25000、1/50000
 - ・ 道路状遺構関連図 …………… 1/25、1/40、1/50、1/100
 - ・ 土層図 …………… 1/20、1/25、1/40
 - ・ 礎群実測図 …………… 1/20
 - ・ 遺物出土分布図 …………… 1/80、1/100
- ※ 以上を基本とするが、これ以外のももある。
4. 図版の縮尺（遺構・遺物写真等の縮尺）については統一されていない。
5. 石器観察表の計測は下記の方法による。法量の単位はcm（最大長・最大幅・最大厚）とg（重量）である。
6. 石器実測図の中の記号・表示は以下のものを示す。
 - ・ 石器の節理面は、一点鎖線で表示する。
 - ・ 微細剥離が確認された部分は、の記号を用いて、その範囲を示す。
 - ・ 「折れ」の状態が確認された石器には、欠損部分に  の記号を示す。
 - ・ 敲打痕は、下記の要領で示す。



7. 本報告書で使用している「赤化礫大・中・小」の表現は、法量の大きさをいうものではなく、「赤化度」に基づくものである。すなわち「全面にわたって色濃く赤化している」ものを「大」とし、「おおそ全面にわたって赤化している」ものを「中」、「一部赤化している」ものを「小」とした。また、「巨礫」は、周辺の礫と比べて著しく大きく、1500g以上のものについて使用した。
8. 本報告書に記載する層序については、層（テフラ、ローム層）の略称は、平成15年度の「東九州自動車道（都農～西都農）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書IV」第1章第4節の記載に準ずる。
9. 本報告書に実測図が掲載されている遺物については、観察表をつけている。

本文目次

第I章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第II章 遺跡の環境	2
(1)地理的環境	2
(2)歴史的環境	2
第III章 調査の経過と方針	5
第1節 確認調査の概要	5
第2節 発掘調査の方法	6
第3節 整理作業及び報告書作成	8
第IV章 調査の記録	8
第1節 調査の概要	8
第2節 基本層序	9
第3節 道路状遺構の調査	14
1 遺構	14
SG 1・2・3・4	14
SG 5・6	30
SG 7・8	38
SG 9・10・11・12	44
SG 13~16	49
2 遺物	49
第4節 縄文時代の調査	58
A・B区の調査	58
遺物	58
第5節 後期旧石器時代の調査	65
B区の調査	65
遺構	65
遺物	65
第V章 自然科学分析	89
第1節 湯傘田遺跡のテフラ分析	89
第2節 湯傘田遺跡における植物珪酸体分析	93
第VI章 まとめ	98
・ 後期旧石器時代	98
・ 縄文時代	98
・ 古代以降	98
・ 近世末~近代	99
第VI章 波板状凹凸面に関する一考察	100

挿 図 目 次

第1図	湯牟田遺跡周辺遺跡図	3	第31図	A2区SG3、SG8・9側溝ベルト土層図	34
第2図	周辺地形図及び調査区	4	第32図	A1区SG4平面図・断面図	35
第3図	確認調査トレンチ配置図	5	第33図	A1区SG5・7平面図	36
第4図	グリッド配置図	7	第34図	A1区SG5断面図	37
第5図	文化層別調査範囲図	7	第35図	A1区SG7断面図	39
第6図	湯牟田遺跡と後牟田遺跡との土層比較図	9	第36図	A1区SG5のビット(№.9)横断面図	39
第7図	A1区東西方向土層図	10	第37図	道路状遺構に伴う波板状凹凸面観察基準図	39
第8図	A1区南北方向土層図	10	第38図	波板状凹凸面比較のための基準軸提示図	39
第9図	A2区東壁土層図	11	第39図	A2区SG5・7、SG8の側溝の切り合い関係模式図と平面図	40
第10図	A2区西壁土層図	11	第40図	A2区SG5断面図	41
第11図	A2区東西方向、南北方向土層図	12	第41図	A1区SG6平面図	42
第12図	C区北・南壁土層図	13	第42図	A1区SG6東壁土層図	42
第13図	A1・A2区遺構分布図	15	第43図	A1区SG6ビット土層断面図	42
第14図	A1区遺構分布図	16	第44図	A1区SG6西壁土層図	42
第15図	A1区東壁土層図	17	第45図	A2区SG6平面図	43
第16図	A1区西壁土層図	18	第46図	A2区SG6東壁土層図	43
第17図	A1区北部遺構分布図 〔SG8・9の側溝復元付〕	19	第47図	A2区SG6西壁土層図	43
第18図	A1区道路状遺構に伴う硬化層検出状況図	20	第48図	A1区SG8平面図	45
第19図	A1区道路状遺構に伴う波板状凹凸面ビット検出状況図	21	第49図	側溝間心々距離計測図(A1区SG8)	45
第20図	SG1～4、SG5・7及びSG8・9の側溝に関するベルト土層図	22	第50図	側溝間心々距離計測図 (A1・2区SG8)	45
第21図	A1区SG2平面図	24	第51図	A2区SG8平面図	46
第22図	A1区SG2断面図	25	第52図	側溝間心々距離計測図(A2区SG8)	46
第23図	A1区SG3平面図	26	第53図	A1区SG9平面図	47
第24図	A1区SG3断面図	27	第54図	A1区SG9ベルト土層図	47
第25図	A2区SG3平面図	28	第55図	側溝間心々距離計測図(A1区SG9)	47
第26図	A2区SG3断面図	29	第56図	側溝間心々距離計測図 (A1・2区SG9)	47
第27図	A2区遺構分布図	31	第57図	A2区SG9平面図	48
第28図	A2区道路状遺構に伴う硬化層検出状況図	32			
第29図	A2区道路状遺構に伴う波板状凹凸面ビット検出状況図	33			
第30図	A2区SG5・7ベルト土層図	34			

第58図	A 2区SG 9ベルト土層図	48	第85図	B区後期旧石器時代グリッド別礫・赤化礫 総重量グラフ	71
第59図	B区遺構別遺物分布図	50	第86図	後期旧石器時代B区接合状況	72
第60図	B区SG12平面図	51	第87図	後期旧石器時代B区石器(器種別)分布状 況図	73
第61図	B区SG12西壁土層図	51	第88図	後期旧石器時代B区全体器種別石材構成グ ラフ	74
第62図	C区遺構分布図	52	第89図	後期旧石器時代石材別(流紋岩)分布状況 図	75
第63図	C区SG11土層図	52	第90図	後期旧石器時代石材別(珪質頁岩)分布状 況図	75
第64図	A 1区古代以降遺物密集部分垂直分布図	53	第91図	後期旧石器時代石材別(チャート)分布状 況図	75
第65図	C区SG13~16・SE1・2平面図	53	第92図	後期旧石器時代石材別(黒曜石)分布状況 図	75
第66図	C区SG13~16・SE1・2に関する上層 図	54	第93図	後期旧石器時代石材別(ホルンフェルス) 分布状況図	76
第67図	A区遺構別遺物分布図	55	第94図	後期旧石器時代石材別(砂岩)分布状況図	76
第68図	道路状遺構出土石器実測図	56	第95図	後期旧石器時代石材別(尾鈴酸性岩)分布 状況図	76
第69図	道路状遺構出土石器実測図	57	第96図	後期旧石器時代接合資料実測図	77
第70図	縄文時代B区石器(器種別)・礫分布状況 図	59	第97図	後期旧石器時代石器実測図(1)	78
第71図	A 1・A 2区縄文時代石器分布状況図	60	第98図	後期旧石器時代石器実測図(2)	80
第72図	B区縄文時代石器分布状況図	60	第99図	後期旧石器時代石器実測図(3)	81
第73図	A・B区縄文時代石材別分布状況図	61	第100図	後期旧石器時代石器実測図(4)	82
第74図	A・B区縄文時代器種別石材構成グラフ (個数比)	62	第101図	後期旧石器時代石器実測図(5)	83
第75図	A・B区縄文時代黒曜石産地別構成比グラ フ(個数比)	62	第102図	後期旧石器時代石器実測図(6)	84
第76図	縄文時代石器実測図(1)	63	第103図	後期旧石器時代石器実測図(7)	85
第77図	縄文時代石器実測図(2)	64	第104図	後期旧石器時代石器実測図(8)	86
第78図	B区東西方向、南北方向土層図	66	第105図	後期旧石器時代石器実測図(9)	87
第79図	後期旧石器時代B区石器(器種別)・礫分 布状況図	67	第106図	標準土層断面の土層柱状図	92
第80図	後期旧石器時代B区L13グリッド北西部礫 群実測図	68	第107図	標準土層断面の火山ガラス比ダイヤグラ ム	92
第81図	後期旧石器時代B区L13グリッド北西部礫 群内石器・礫分布図	69	第108図	T41における植物珪酸体分析結果	96
第82図	後期旧石器時代B区礫群内器種別石材構成 グラフ(個数比)	70	第109図	J11における植物珪酸体分析結果	96
第83図	後期旧石器時代B区西部礫・赤化礫分布状 況図	71	第110図	M12における植物珪酸体分析結果	97
第84図	B区後期旧石器時代全体礫・赤化礫石材構 成グラフ(重量比)	71	第111図	湯幸田遺跡における波板状凹凸面形成過 程説明図	104

第112図	道路状遺構に伴う波板状凹凸面計測値ヒストグラム	106	第115図	牛歩行跡実測図	107
第113図	牛の足跡実測図	107	第116図	A1区波板状凹凸面縦断面見通し図	108
第114図	A1区SG5ピット(№3)実測図	107	第117図	A1区波板状凹凸面縦断面集約図	108

目 次

第1表	道路状遺構出土土器観察表	56	第6表	屈折率測定結果	91
第2表	道路状遺構出土石器観察表	57	第7表	M12グリッド植物珪酸体分析結果	95
第3表	縄文時代(草創期～早期)石器観察表	64	第8表	T41・J11グリッド植物珪酸体分析結果	95
第4表	後期旧石器時代石器計測表	88	第9表	道路状遺構に伴う波板状凹凸面計測表	105
第5表	標準土層断面の火山ガラス比分析結果	91			

図 版 目 次

巻頭図版	遺跡遠景		図版10	A1区SG6完掘状況、SG8完掘状況、SG9完掘状況、A2区SG3検出状況	118
図版1	遺跡近景	109	図版11	A2区SG5・7路面半截状況、SG5・7完掘状況、SG6完掘状況、SG8側溝完掘状況、SG8完掘状況、SG9・10完掘状況	119
	A区近景	109	図版12	C区SG11側溝検出状況、SG11路面状況、SG13～16検出状況・調査途中状況	120
図版2	A1区近景、A2区近景	110	図版13	A1区西壁及びベルト4・5土層図、B区SG12検出状況・完掘状況	121
図版3	A1区遺構検出状況、A1区完掘状況	111	図版14	A1区東壁及びベルト1～3土層図	122
図版4	A2区遺構検出状況、A2区完掘状況、B区遺構検出状況	112	図版15	A1区SG6西壁土層図、SG9西・東壁土層図、A2区SG6西壁土層図、SG5・7西・東壁土層図	123
図版5	B区礫群検出状況、C区遺構検出状況、C区SG11検出状況、C区西部完掘状況	113	図版16	A2区SG8路面残存状況、SG9側溝西・東壁土層図、SG6東壁土層図、SG10西・東壁土層図	124
図版6	A1区北部調査途中状況、SG2路面半截状況、SG3側溝切合状況、SG5・7、SG1・2・3・4、SG8完掘状況、SG1・2完掘状況、SG3・4側溝完掘状況	114			
図版7	SG5路面半截状況、SG5波板状凹凸面縦断面状況	115			
図版8	SG5波板状凹凸面縦断面状況	116			
図版9	A1区SG5・7完掘状況、SG5波板状凹凸面完掘状況	117			

図版17	A1区東西方向土層観察用ベルト土層図、 A2区ベルト1～3土層図、C区北・南壁 土層図、B区ベルト土層図、南壁土層図	125
図版18	牛歩行実験記録	126
図版19	道路状遺構出土土器・石器、縄文時代（草 創期～早期）出土石器、後期旧石器時代出 土石器	127
図版20	後期旧石器時代出土石器	128



遺跡遺景

第I章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道(都農～西都間)は、平成元年2月に基本計画がなされ、平成9年3月には整備計画路線となっている。平成13年3月には、西都～清武間が供用開始となり、都農～西都間は、平成9年12月に建設大臣から日本道路公団へ施行命令が出され、公団では翌年の2月から事業に着手している。その間、宮崎県教育委員会では、平成6年度にこの区間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響が出る部分については、工事着手前に発掘調査を実施することになった。調査は、平成11年度より宮崎県埋蔵文化財センターで実施している。

川南町大字川南字湯牟田の工事区内一帯は水田耕作地帯であり、その中に湯牟田遺跡がある。本調査に先立って、平成13年9月11日から11月29日にかけて確認調査を行った結果、アカホヤ上面で東西に走る溝を3条検出すると同時に、石庖丁や須恵器片が出土した。また角錐状石器が出土したトレンチもあり、小林軽石を含む層の前後に後期旧石器時代の包含層が確認されたことから、本調査を実施することとなった。発掘調査は、調査対象面積を3,700㎡として、平成13年12月10日に着手し、平成14年7月31日に終了した。整理作業は、平成14年度から実施し、同年度に終了した。

第2節 調査の組織

湯牟田遺跡の調査組織は次の通りである。

調査主体 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	長 矢野 剛 (平成13年度)
	米良 弘康 (平成14～15年度)
	宮園 淳一 (平成16年度)
歴任所長兼調査第二課長	岩永 哲夫 (平成13年度～16年度)
副所長兼総務課長	菊地 茂仁 (平成13年度)
	大藪 和博 (平成14～16年度)
調査第一課長	面高 哲郎 (平成13年度)
	児玉 章則 (平成14～15年度)
	高山 富雄 (平成16年度)
調査第一係長	谷口 武範 (平成13～16年度)
主幹兼調査第二係長	長津 宗重 (平成13～16年度)
総務係長	亀井 維子 (平成13年度)
	野邊 文博 (平成14年度)
主幹兼総務係長	石川 恵史 (平成15～16年度)
主査(整理作業調整担当)	大村公美恵 (平成13～15年度)
主査(調査担当)	山下 健一 (平成13年度)
主査(調査・報告書担当)	都成 量 (平成13～15年度)
調査指導	小畑 弘己 (熊本大学)
	泉 拓良 (京都大学)
	木田 道輝 (鹿児島大学)
	田崎 博之 (愛媛大学)
	柳沢 一男 (宮崎大学)
	広瀬 和雄 (国立歴史民俗博物館)
	岡田 康博 (文化庁)
	加藤 真二 (文化庁)
	禰宜田佳男 (文化庁)
調査協力	宮越 吉美 (畜産農家)

第二章 遺跡の環境

(1) 地理的環境

湯牟田遺跡の存する川南町は、宮崎県の中央部に位置し、尾鈴山塊に属する上面木山が裾野を緩やかに広げる台地上にあり、町の中央を流れる平田川の浸食作用によって唐瀬原・国光原の二つの台地に分かれている。標高は、国道10号線より東側は50m前後、10号線と広域農道との中間地帯は約60m～80m、広域農道以西は約80m～100mとなっている。

湯牟田遺跡は、川南町の中央部を東西に流れる平田川と南部を流れる小丸川の支流である切原川に挟まれた国光原台地南部の縁辺に位置し、標高は約62mである。旧地形は、海岸に向かってなだらかな上がり勾配となっているが、現地形は、戦後基盤整備がなされ、場所によって段差があるもの水田耕作によって平坦に削平され、耕作土が載せられている。

(2) 歴史的環境

本遺跡周辺の主な遺跡には、中期旧石器時代の後牟田遺跡や、弥生土器片や堅穴住居跡などを確認した把言田遺跡などがある。また南西約0.8kmに川南古墳群、南東約1.8kmに持田古墳群がある。

川南町内の小字名を調べてみると、「牟田」と名のつく地名が、比較的多い。例えば「湯牟田」の他に「堤牟田」、「後牟田」、「新牟田」、「蛇ヶ牟田」、「大牟田」等の小字が見られる。「むた」とは、「草の生い茂った沼」の意であり、「むたはみつちかの反。水近敷、またむたをば牟田と書けり。みつた敷」（日本国語大辞典・小学館）とある。川南町内に点在するこれらの小字名「一牟田」は、町内の東部に昔から水が豊富に溢れていたことを表すものと思われる。このことと関連する地名として、「湯迫」、「出水」、「清水」、「水穂」、「清瀬」、「小池」等があり、やはり「豊かな水」の存在を想起させる。また、「牟田」と並んで目につくのが、「原」である。「国光原」、「唐瀬原」、「菅原」、「松原」、「篠原」、「椎原」、「野田原」等数多くの「一原」のついた小字名を見つけることができる。かつてこの地に、植物の生い茂った平坦面が限りなく広がっていたことを想像させる。

ところで、湯牟田の名前が書物に見られるようになるのは、近世になってからである。江戸時代の『竹方目安』には湯牟田には、竹林があったという記載があり、『新古山奉行目安』には、高城郷所属の湯牟田に高鍋藩直轄の山があったことが知られている。また『高鍋藩拾遺本落実録卷之八』の享保15（1731）年の記述の中には、「白髭道鬼ヶ久保より白髭坂迄海道左右へ少々上手築楯木千八百本植人足千三百九十人普請方人足井家中町浦津まで寄進共」とあり、『卷之十』の延享4（1747）年には、「坂本上から鬼ヶ久保白髭道迄並木松両側共に高鍋町類焼之者へ被下跡道幅広小松植道迄被仰付（坂本上から鬼ヶ久保白髭道筋の並木松が、高鍋町類焼者に与えられ、その跡は道幅を拡張して小松が植えられた）」という記述がみられる。ここにある白髭道は、地理的な位置関係から、おそらく湯牟田を通っていたことが推定される。明治時代に調査を行った『日向地誌』（平部崎南著）にも、湯牟田という名の地名や遺跡は見当たらない。僅かに「湖沼」の項目で「湯牟田池」の名称が見える程度である。「周圍凡十四町廣一町六段餘深五尺」とあり、川南では最大の池として記されている。また、「大分縣街道」という道路に関して次のような記載がある。「鬼ヶ窪ヨリ西北ニ岐レ、多賀神社ニ至ル支道アリ〜何レモ松並木連ナル」とあり、明治時代にも、現在の鬼ヶ久保より湯牟田を通して十文字に向かう道路が通っていたことを知ることができる。

《参考文献》

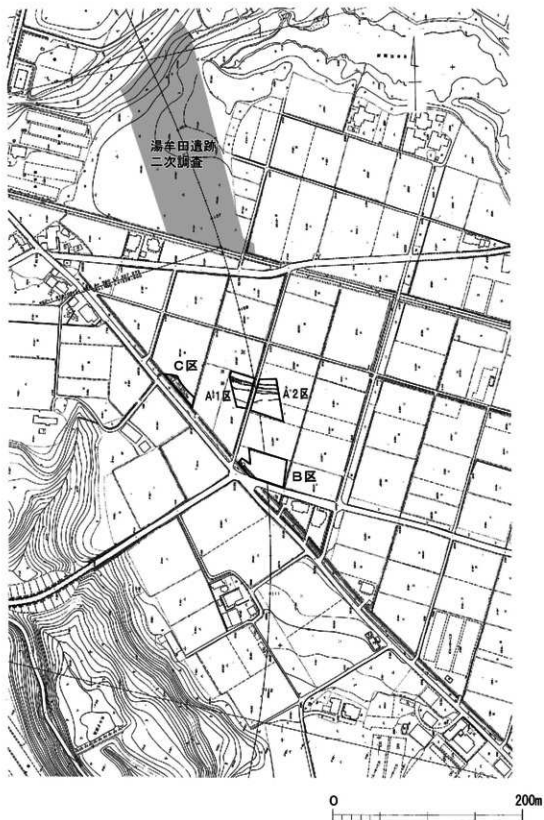
- ・『宮崎県史』
- ・『日向地誌』平部崎南
- ・『川南町史』
- ・『高鍋藩拾遺本落実録』
- ・『日本国語大辞典』小学館



- | | | |
|-----------|---------|----------|
| 1 湯牟田遺跡 | 2 後牟田遺跡 | 3 把言田遺跡 |
| 4 前ノ田村上遺跡 | 5 上ノ原遺跡 | 6 尾花坂上遺跡 |
| 7 野首第2遺跡 | 8 川南古墳群 | 9 持田古墳群 |

0 2.5km

第1図 湯牟田遺跡 周辺遺跡図 (S=1/50,000)



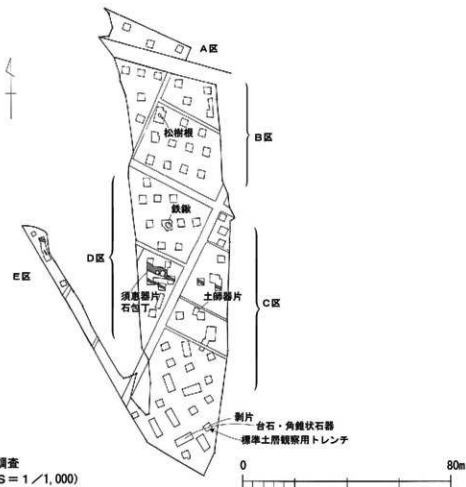
第2圖 湯牟田遺跡 周辺地形図および調査区 (S=1/4,000)

第三章 調査の経過と方針

第1節 確認調査の概要

確認調査実施に先立ち、平成13年9月11日と13日の2日間にわたり、調査員2名で調査対象区に0.5m×0.5mの小さなトレンチを12箇所開け、アカホヤの残存状況を調査した。その結果、調査区の北西部の2箇所を除き、アカホヤが残存していることを確認した。また、その折、地権者に過去の現地の状況を聞いたところ、昔は海側(東側)に向かって緩やかに高くなっていたとのことであった。平成13年9月11日から11月29日まで11,400㎡を調査対象として、確認調査を行った。作業の都合上、中央部を走る農道を基準に、調査地に便宜的に北からA区～E区の名を付けた。アカホヤの残りのよくない、A区を除いて、第3図のように、どの区にも30%を目

標に確認トレンチを入れた。確認トレンチは、およそ等間隔に旧地形において頂上があったと推定される所に向かって線状に配置した。最終的に4m×4mのトレンチを57本手掘りで、4m×10mのトレンチを10本重機で明け、拡張した部分も含めると、総面積1,350㎡の調査を行った。その結果、調査区中央部(D・C区)と南西部(E区)のトレンチより、主にアカホヤ上面で、道路状遺構を検出した。そして、南部トレンチのアカホヤ下からは、石器が数点出土した。また、B区やD区の攪乱土坑より松の樹根や鉄線が掘り出された。削平の激しい北部と遺物が出土しなかった部分を除き、道路状遺構と遺物密度が高いと思われる所を中心に、調査面積3,700㎡を設定した。



第3図 湯牟田遺跡 確認調査
トレンチ配置図 (S=1/1,000)

第2節 発掘調査の方法

1 調査区の設定

調査地は、その中央部を南北方向に生活道路が縦断し、基盤整備によって平坦にされているものの、一筆ごとに段差があったり、用水路があったりして、田地は明確に区画されていた。調査面積を3,700㎡に絞り込んだため、調査地が離れ離れになり、北から4つの調査区(A1・A2・B・C)に設定し直した(第4図)。

2 調査の手順及び内容

A1区は、確認調査を行った時点で、アカホヤ(Ⅲ層)まで耕作土が載せられていることがわかってきたため、重機で耕作土を除去し、アカホヤ上面で遺構検出を行い、道路状遺構を精査した。また、その下層の黒褐色土層(Ⅳ層)からも縄文時代早期の遺物が出土したため、暗褐色土層(Ⅴ層)まで部分的に掘り下げた。更に、5m×5mの深掘トレンチを2箇所開けて阿蘇4火山灰層(Ⅶ層)まで掘り下げたが、何ら遺構・遺物は確認されなかった。A2区は、A1区に比べると、黒色土層が厚く、耕作土を重機で除去した後、鋤簾を使用しながら黒色土層中で遺構検出を行った。北東部では黒色土層中で、土師器細片の集中区を確認した。道路状遺構を調査しながら、A2区の西側部分について黒褐色土層(Ⅴ層)まで調査した結果、石器が数点出た。また5m×5mの深掘トレンチを3箇所開けたが、何ら遺構・遺物は確認されなかった。B区は、確認調査の時点で、後期旧石器時代の遺物と道路状遺構の一部分を検出していたため、アカホヤの少し上までを重機で剥ぎ、そこから鋤簾をけを行い、遺構検出を厳密に行った。道路状遺構が一条であることを確認し、調査終了後、アカホヤを重機で除去し、手掘りで阿蘇4火山灰層まで掘り下げながら調査を続けた。また、さらに確認トレンチを2箇所あけ、礫層を確認した。C区も、確認調査の時点で、深く落ち込んだアカホヤ上面で、遺構を確認していたため、本調査では、水田耕作に伴う耕作土を重機で除去した後、手掘りで鋤床を取り除いた。この鋤床の下から、新たな道路状遺構を検出し調査した。さらに違う方向に

走行する道路状遺構についても精査した。

3 調査の進捗状況(現地説明会)及び調査終了後の状況

確認調査時の遺構検出では、道路状遺構については、3条検出したのみであったが、本調査では新たな道路状遺構を検出しただけでなく、複雑に切り合っている箇所があり、A1・2区、C区の調査は、時間を要した。さらに調査を進めるうちに硬化面(層)の下に波板状凹凸面をもっている道路状遺構も検出され、その調査に時間をかけた。B区に関しては、順調に発掘作業が進んだ。平成14年5月26日(日)には、午後より現地説明会を開いた。見学の中心は、A区の波板状凹凸面を伴った道路状遺構とB区の礫群においた。100名の参加者から、好評を得ることができた。調査の後半は、やや雨が多く、作業に支障が出たが、7月31日までに埋め戻しを終え、発掘作業を終了した。

4 日誌抄

- 平成13.12.10 湯牟田遺跡一次調査開始。
- 12.11 現場事務所・作業員棟・トイレ設置。
- 12.13 重機により表土剥ぎ開始。
- 12.17 A区人力で耕作土を除去、鋤簾かけ。
- 12.18 A1区、道路状遺構新たに検出。
- 12.21 A2区、黒褐色土層(Ⅱ層)で道路状遺構3条検出、多数の土師器細片出た。
- 12.25 現場事務所横にクラッシャーラン敷設。
- 12.26 測量会社によるグリッド杭打ち開始。
- 平成14.1.8 A2区、黒色土層中で道路状遺構を検出。
- 1.9 C区硬化した土の入った溝を1条検出。
- 1.11 A1・2区遺構検出面写真撮影。測量会社によるコンタ図作成開始。
- 1.17 B区遺構検出面写真撮影。
- 1.22 B区25%調査開始。
- 1.24 C区土師器片、陶磁器片出た。
- 1.30 古環境研究所、土壌サンプルを採取。

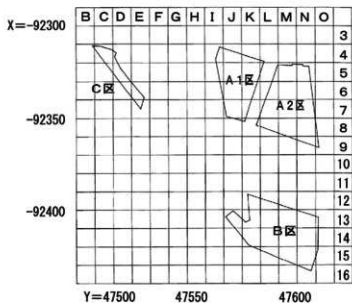
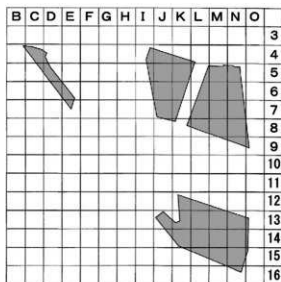
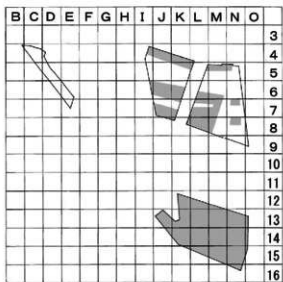


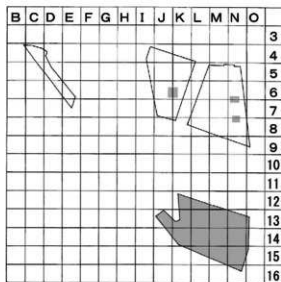
図4 グリッド配置図



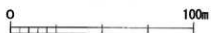
(1) アカホヤ降灰以降の時代



(2) 縄文時代 (IV層～V層)



(3) 後期旧石器時代 (VI層～VII層)



第5図 文化層別調査範囲図

- 平成14. 2. 6 C区遺構検出面写真撮影。
- 2.14 B区50%調査へ移行。
- 2.19 A1区道路状遺構に波板状凹凸面を検出。古環境研究所、火山灰サンプルを採取。
- 2.26 B区75%調査開始。
3. 6 ラジコンヘリで航空写真撮影。
- 3.11 B区道路状遺構完掘写真撮影。
- 3.12 重機でB区の排土をA区北側へ移動。
- 3.25 調査指導委員来跡。調査方法などについて指導。
4. 4 B区阿蘇4火山灰まで100%調査開始。
- 4.10 B区で稜群1基検出。
- 4.17 A1区南側で黒褐色土層（IV層）を掘り下げ開始。
5. 7 A2区南側で黒褐色土層（IV層）を掘り下げ開始。
- 5.26 現地説明会実施。参加者100名。
6. 3 永山修一氏（ラ・サール高校）来跡。道路状遺構について参考意見をいただく。
- 6.11 木本雅康氏（長崎国際大学）、柴田博子氏（産業経営大学）、近藤 協（宮崎県総合博物館）来跡。
- 6.12 A1区北側で黒褐色土層（IV層）を掘り下げ、発掘調査終了後、宮崎県埋蔵文化財センターに搬送開始。
- 6.26 ラジコンヘリで航空写真撮影。
- 6.27 A1・2区道路状遺構写真撮影。B区阿蘇4火山灰下まで、確認トレンチを開ける。
7. 2 A2区南部に、2箇所確認トレンチを開ける。
7. 3 A1区南部に、2箇所確認トレンチを開ける。
7. 8 A2区道路状遺構で「牛歩行検証実験」を行う。
- 7.24 山近久美子氏（防衛大学校）調査指導。
- 7.25 現場埋め戻し開始。
- 7.31 現地調査終了。現場事務所・作業員棟・トイレ撤去。

第3節 整理作業及び報告書作成

取り上げた遺物は、ひとまず現場事務所に保管し、平成14年8月より整理作業を開始した。水洗い後、選別を行い、注記をした後、基本的な計測を行い、遺物台帳の作成を行った。その後、石質に分類し、石器類だけでなく、礫も接合作業を行った。実測に関しては、主に旧石器時代の遺物を平成14年12月に石器実測委託に出し、縄文時代の遺物については平成14年11月より、センターで実測した。遺物トレースは平成15年12月よりセンターで行った。また調査区によって土層堆積状況が若干異なっているが、発掘調査時の出土層位を参考にしながら、遺物の垂直分布に基づいて文化層の設定を行った。それに従い、平面・垂直分布図を作成した。報告書作成にあたっては、宮崎県埋蔵文化財センター報告書マニュアルに則って作成した。

第四章 調査の記録

第1節 調査の概要

A区で検出された遺構は、波板状凹凸面をもつ道路状遺構（4条）、明確な波板状凹凸面をもたない道路状遺構（3条）、側溝付の道路状遺構（2条）、硬化面（路面）のみをもつ道路状遺構（1条）である。これらの遺構は、殆どがアカホヤ上の黒褐色土

層（II層）から掘り込まれていた。また複雑に切り合っており、部分的にしか残っていないものが多かった。A区の遺物は、道路状遺構から石器や須恵器片が僅かに出土したものの、圧倒的に土師器片が多く、集中区が見られた。アカホヤ下の黒褐色土層（IV層）からは、縄文時代早期の石器が若干出土している。B区で検出された遺構は、轍付の道路状遺構（1条）、

確群（1基）である。B区の遺物は、縄文時代早期の石器が数点見られたが、主に後期旧石器時代の遺物が出土した。C区では、波板状凹凸面をもたない道路状遺構（4条）、側溝付きの硬化面（路面）をもつ道路状遺構（1条）、溝（2条）を検出した。これらは、A区の道路状遺構の延長線上にあるものと思われる。近世末の陶器片や土師器片が、わずかに出土した。

第2節 基本層序

湯牟田遺跡の基本層序の観察は、B区の北東部にトレンチを設定して行った。新潟環境研究所の分析報告（第V章）及び土層観察から、湯牟田遺跡の基本土層はI～X層に分けられる（第6図）。黒色土層（II層）よりML1（V層）までは各層とも堆積は良好であるが、Kr-kb（VI層）では、小林軽石を含む層が限定的に見られたが、殆ど明確に堆積していない。ML2（VII層）は、存在するもののAT以下MB2～ML5まで明確な堆積を肉眼で確認することはできない。AT下位の層は何らかの理由で堆積できずに流失したと推定される。ML2の下には、Aso-4の二次堆積層（VIIa～VIIe）が漸移的に検出され、その下にAso-4の一次堆積層を確認した。Aso-4は、地下に溜まった水の影響によって、かなり風化している。更にその下には、黒色のマンガン層（IX層）が薄く堆積しており、水分を多く含んだ黄灰色土層（X層）が続いている。従って、湯牟田遺跡のVI層以下の土層堆積に関しては、何らかの理由によ

り良好な堆積ができなかったものと思われる。また、Aso-4及びその下の明黄褐色ローム層については、場所によっては、溢れるほどの水分を含んでいた。

I層 耕作土 20～60cm前後の堆積があり、場所によっては何回か土を入れ替えているところがある。

II層 黒色土 粘性が強く、密に堆積している。シルトに近い。軟らかな土である。

III層 暗黄褐色土（K-Ah）

IV層 MB0 黒褐色ローム非常に硬く締まっている。

V層 ML1 暗褐色ローム

VIa層 Kr-kb 橙色のバミスを含む褐色土

VIb層 Kr-kb 橙色のバミスを含まない褐色土

VII層 ML2 白斑を含む暗褐色ローム

VIIa層 Aso-4の二次堆積 にぶい褐色土で、粘性が強い。

VIIb層 Aso-4の二次堆積明黄褐色土で、砂質である。

VIIc層 Aso-4の二次堆積褐色灰色土で、粘性が非常に強い。

VII d層 Aso-4の二次堆積黄褐色土で、砂質である。

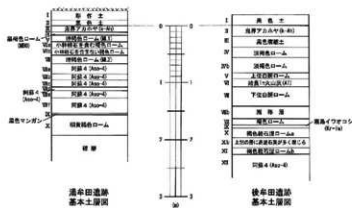
VII e層 Aso-4の二次堆積褐色灰色土で、粘性が非常に強い。

VII f層 Aso-4の一次堆積橙色土で、粘性が非常に強い。

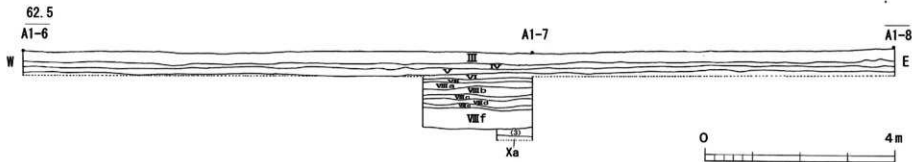
IX層 黒色マンガン層ゴマ粒大の黒い粒を密に含む。

X層 明黄褐色ローム粘性が非常に高い。

XI層 礫層（三財原段丘堆積物）上部に15cm前後の礫が堆積し、その下に5cm～10cm前後の小礫が堆積している。更にその下には砂礫層がきている。



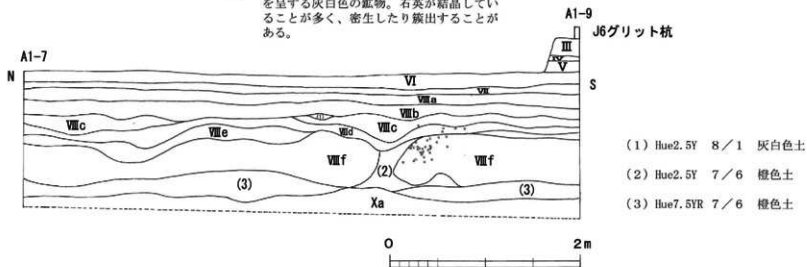
第6図 湯牟田遺跡と後牟田遺跡との土層図比較



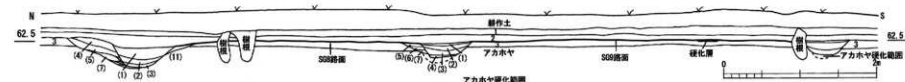
第7図 A1区東西方向土層図 (S=1/80)

62.5

○ 晶洞=地下水や熱水等によって結晶した、魚卵状を呈する灰白色の鉱物。石英が結晶していることが多く、密生したり簇出することがある。



第8図 A1区南北方向土層図 (S=1/40)



基本土層に関する註記

- Blue 10YR 3/1 黄褐色土 粘性強く、密な堆積。シルト質。広い黄褐色の軟質ブロックがわずかに混じる。
- Blue 10YR 2/1 黄褐色土 粘性強く、密な堆積。シルトに近い軟質土。
- Blue 2.5Y 3/2 黄褐色土 アカホヤが変色したもののほか、粗い堆積。硬質な土。

アカホヤ硬化層

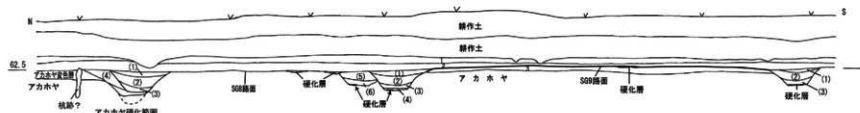
SG3、SG8-9の断面に関する註記

- Blue 2.5Y 2/1 黒色土 やや軟質な土で、粘性強く、シルトに近い。
- Blue 2.5Y 2/1 黒色土 やや軟質な土で、粘性強く、シルトに近い。
- Blue 10YR 2/1 黒色土 軟質な土で、粘性強く、シルトに近い。
- Blue 10YR 3/2 黒褐色土 硬質な土で、粘性強く、シルトに近い。
- Blue 7.5YR 2/1 赤褐色土 やや硬質な土で、粘性強く、シルトに近い。
- Blue 7.5YR 2/1 赤褐色土 やや硬質な土で、粘性強く、シルトに近い。部分的にブロッコ状の硬質土がある。
- Blue 7.5YR 2/1 赤褐色土 硬質な土で、やや光沢をもつ。粘性強く、シルトに近い。

SG9の断面に関する註記

- Blue 10YR 2/1 黒色土 やや硬質で、粘性が強い。シルトに近い。
- Blue 10YR 3/2 黒褐色土 硬質で、粘性が強い。シルトに近い。やや光沢をもつ。
- Blue 10YR 3/2 黒褐色土 やや硬質で、やや粗い堆積。アカホヤの砂粒が混じる。
- Blue 10YR 3/2 黒褐色土 粘質土。硬質で密に堆積。3層あるが、下にはほど黄色を帯びる。暗褐色の硬化層も混じる。
- Blue 10YR 2/2 黒褐色土 硬化層。わずかに白色粒が混じる。

第9図 A2区東壁土層図 (S=1/50)



- (12) 褐色硬化層 (SG7)
(13) 煉瓦状の硬化層
(14) 黄褐色硬化層 (SG5)

第10図 A2区西壁土層図 (S=1/40)

62.5

A2-6

II

III

IV

V

VI

A2-6

E

A 2 区土層

- (1) Rat2. 016/4 細かい黄色土。ざらざらしていて、粒子がやや粗いが、締まりがある。角閃石が顕微鏡に見られる。
 (2) Rat2. 016/8 明淡褐色。粒子が粗く、べとべとしている。
 (3) Rat3. 017/1 黄褐色土。灰白色の粘性の強い土で、黄褐色の上が部分的に混じっている。上面には、マンガン粒子濃度の黄褐色土が入っている。
 (4) Rat2. 016/6 黄褐色土。粒子粗く、繊維状白粉や角閃石が多く混じっている。
 (5) Rat1032/8 黄褐色土。粒子が粗く、締まりが悪い。
 (6) Rat018/4 淡黄色土。粘性があり、べとべとしている。土にしまりがあり、角閃石がまばらに見える。

62.5

A2-6

II

III

IV

V

VI

VII

VIII

IX

X

XI

XII

XIII

XIV

XV

XVI

XVII

XVIII

XIX

XX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXXI

XXXII

XXXIII

XXXIV

XXXV

XXXVI

XXXVII

XXXVIII

XXXIX

XXXX

XXXXI

XXXXII

XXXXIII

XXXXIV

XXXXV

XXXXVI

XXXXVII

XXXXVIII

XXXXIX

XXXXX

A2-7

E

(3)

62.5

A2-10

S

III

IV

V

VI

VII

VIII

IX

X

XI

XII

XIII

XIV

XV

XVI

XVII

XVIII

XIX

XX

XXI

XXII

XXIII

XXIV

XXV

XXVI

XXVII

XXVIII

XXIX

XXX

XXXI

XXXII

XXXIII

XXXIV

XXXV

XXXVI

XXXVII

XXXVIII

XXXIX

XXXX

XXXXI

XXXXII

XXXXIII

XXXXIV

XXXXV

XXXXVI

XXXXVII

XXXXVIII

XXXXIX

XXXXX

XXXXXI

XXXXXII

XXXXXIII

XXXXXIV

XXXXXV

XXXXXVI

XXXXXVII

XXXXXVIII

XXXXXIX

XXXXXX

XXXXXXI

XXXXXXII

XXXXXXIII

XXXXXXIV

XXXXXXV

XXXXXXVI

XXXXXXVII

XXXXXXVIII

XXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

XXXXXXXI

XXXXXXXII

XXXXXXXIII

XXXXXXXIV

XXXXXXXV

XXXXXXXVI

XXXXXXXVII

XXXXXXXVIII

XXXXXXXIX

XXXXXXX

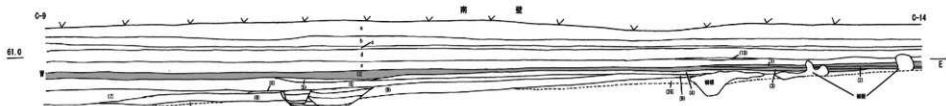
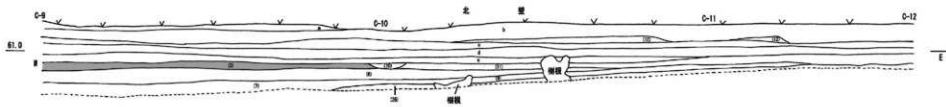
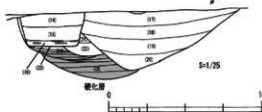


図 8
拡大図



C区北・南壁土層柱記

- a Hae10R2/1 黒色土、粘質土、3mm前後のアカホヤブロック散在り。非常に軟質な土で、強い味醂。
- b Hae10R3/1 黒褐色土、粘質土、非常に硬質な土。2mmほどの暗褐色のブロック散在り。
- c Hae10R3/1 黒褐色土、粘質土、非常に硬質な土。充訳をもち、密な堆積をしている。面入の屈曲が、非常に硬質な土。2mmほどの黄褐色のブロック散在り。
- d Hae10R3/2 黒褐色土、粘質土、非常に硬質な土。厚さ5mmほどの暗灰黄色のブロックが層状に散在る。

- (1) Hae10R2/1 黒色土 非常に硬質な土。1mmほどの黄褐色のブロックがわずかに散在る。
- (2) Hae10R1/7/1 黒色土 非常に硬質な土。
- (3) Hae10R3/1 黒褐色土 硬化層。1mm前後の明黄褐色のブロックが散在る。充訳をもち、密に堆積している。
- (4) Hae2.3R3/1 黒褐色土 非常に硬質な土。
- (5) Hae2.3R4/1 黒褐色土 やや硬質な土。1mmほどの明黄褐色のブロックが多量に散在る。
- (6) Hae2.3R3/1 黒褐色土 やや硬質な土。1mmほどの黄褐色のブロックがわずかに散在る。
- (7) Hae10R1/7/1 黒色土 やや硬質な土。ほとんど散在りがない。
- (8) Hae10R3/1 黒褐色土 やや硬質な土。1mmほどの明黄褐色のブロックが多量に散在る。
- (9) Hae10R4/1 黒色土 粘質な土。1mm以下の黄褐色のブロックがわずかに散在る。上面に部分的に硬化層が見られる。
- (10) Hae10R3/1 黒褐色土 やや軟質な土。1mm以下の明黄褐色のブロックがわずかに散在る。
- (11) Hae2.3R4/1 黒褐色土 やや軟質な土。1mm以下の明黄褐色のブロックが散在る。
- (12) Hae10R3/2 黒褐色土、粘質土、非常に硬質な土。非常に硬質。1mm前後の明黄褐色のブロックが散在る。
- (13) Hae10R3/2 黒褐色土、粘質土、非常に硬質な土。

- (14) Hae10R2/1 黒色土 やや硬質な土。
- (15) Hae10R2/1 黒色土 (14)よりやや灰色味を感じる。やや硬質な土。
- (16) Hae2.3R3/1 黒褐色土 粘質でやや硬質な土。やや強い味醂を呈し、褐色の塊が縦方向に3mmほど見られる。
- (17) Hae10R2/1 黒色土 硬質な土。1cm以下の白色粒が散在る。二層やや硬化。
- (18) Hae10R2/1 黒色土 硬質な土。(17)層よりも褐色味を帯びる。
- (19) Hae10R3/1 黒褐色土 硬質な土。1cm2粒以下に薄い黄褐色のブロックがわずかに散在る。やや充訳をもち、密に堆積。
- (20) Hae10R3/2 黒褐色土 硬質な土。1cm以下の白色粒が多量に散在る。
- (21) Hae10R3/1 黒褐色土 硬質な土。黒褐色土が散在る。
- (22) Hae10R3/1 黒褐色土 硬質な土。1mmほどの白色粒がわずかに散在る。
- (23) Hae10R3/3 黒褐色土 砂質で、細かい黄褐色の2mmほどのブロックが散在っている。
- (24) Hae10R3/3 黒褐色土 硬化層。細かい黄褐色の塊が見られる。
- (25) Hae10R3/1 黒褐色土 硬化層。1mmほどに薄い黄褐色のブロックや細かい黄褐色の塊が見られる。
- (26) 二次堆積のアカホヤ

第12図 C区北・南壁土層図 (S=1/60)

第3節 道路状遺構の調査

1 遺構

A区で道路状遺構を10条(第13図)、B区で1条、C区で1条の合計12条を検出した。さらに、C区では、A区の続きと思われる道路状遺構も検出された。それらの道路状遺構が使用されていたと想定される時期は、古代から近代までかなりの時間的な幅があり、複雑にそれらは切り合っている。

SG 1 (第14図)

A1区北西部の壁際付近で検出した道路状遺構である。SG 2に切られていたため、SG 2の南側の約6m分しか残存していなかった。概ね、東南東から西北西の方角にくだっている。やや硬くなった路面と思われる部分が一部分残っていたが、路面の幅員は不明である。上層は削平されているため、深さもわからないが、検出面から路面までの深さは約44cmを測る。遺物はなく、ピットも検出していない。

SG 2 (第21図)

A1区の北西部で検出した道路状遺構である。地山を掘り込んで作られている。わずかに蛇行しながら、西端は調査区外へと延びているが、東端は攪乱部分で消滅している。A2区では確認していない。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。SG 3を除去して、全体を検出することができた。深さは最大で約47cmを測るが、検出面がアカホヤ層(Ⅲ層)であるため、本来はそれ以上あったと思われる。断面は、上部が大きく開くV字形を呈している。路面を想定する遺構底部の幅員は30cm前後で、その地山はほぼ連続的に硬化している。西部の方では、4cm程度の硬化層が形成されていた。また、露出した地山及び硬化層除去後の地山に、17基のピットを確認した。これらのピットの上層は、進行方向(軸方向)に対して横長の楕円形を呈しているものがほとんどだが、中には縦長の楕円形のものもある。また、ピットの基底部の長さとしに注目した場合、ピットの軸方向の長さは、平均17cmであり、形は楕円形と瓢箪形のものがある。さらに基底部が二つあったり、ピットの壁に棚部をもつものもあった。ピット間の心々距離は、平均66cmであり、ピットの深さ

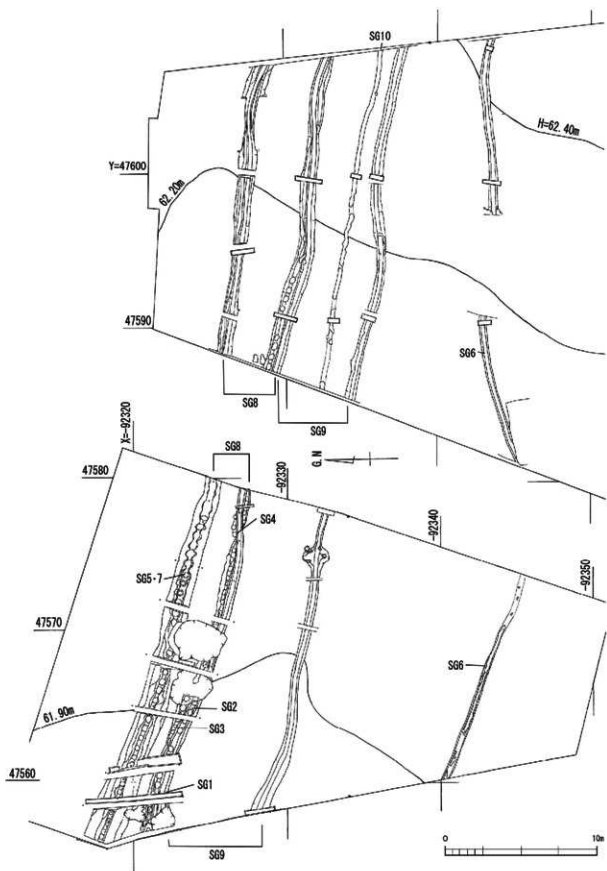
の平均は、11.4cmである。さらにピットの埋土は、1～3種類程度の土が入っているが、いずれも上から強い填圧を加えたかのような硬く締まっているという特徴をもっている。遺物は、長径1.4cm、短径0.7cmの土師器片が埋土より出土したのみである。

SG 3 (第23～26図)

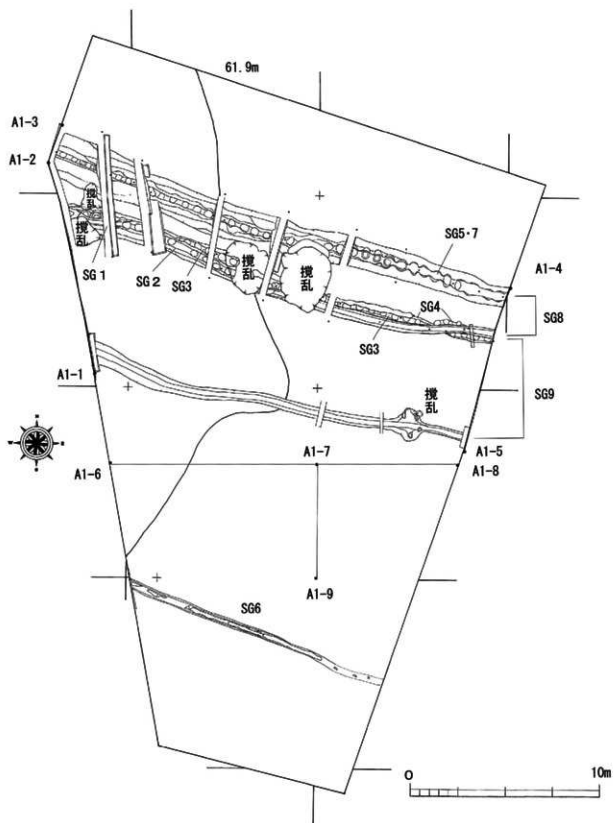
A1区・A2区の北部で検出した道路状遺構である。部分的に地山を削るところはあるものの、基本的にはSG 2に沿うような形で掘り込まれている。わずかに蛇行しながら、西端、東端ともに調査区外へと延びている。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っているが、SG 8の側溝によってかなり切られていた。深さは最大で約24cmを測るが、上部削平のため本来はそれ以上あったと思われる。断面は、底の広いU字形を呈している。路面を想定する遺構底部の幅員は30cm前後で、その地山は連続的に硬化している。6cm程度の硬化層が形成されているのを部分的に検出した。また、推定された路面上に、47基のピットを確認した。これらのピットの上層は、ほぼ円形を呈しているが、進行方向(軸方向)に対して横長の楕円形を呈しているものもある。また、ピットの基底部の長さとしに注目した場合、ピットの軸方向の長さは、平均14cmであり、形は円形、楕円形、瓢箪形のものがある。さらに駱駝の瘤状に基底部が二つあるものもあった。ピット間の心々距離は、平均63cmであり、ピットの深さの平均は、4cmである。さらにピットの埋土は、1～2種類程度の土が入っているが、いずれも上から強い填圧を加えたかのような硬く締まっているという特徴をもっている。遺物は、長径、短径ともに2cm前後の胴部付近かと思われる土師器片が埋土より出土したのみである。

SG 4 (第32図)

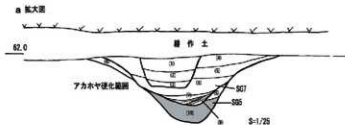
A1区の北東部のみで検出した道路状遺構である。SG 3の残存部分かと勘違いしていた黒色の硬化層を除去して、ピットを検出し、SG 4の道路状遺構を確認することができた。部分的に新たに地山を削るところはあるものの、基本的にはSG 3の北隣に寄り沿うような形で掘り込まれている。SG 8の側溝によって部分的に切られていた。ほぼ直線的に延



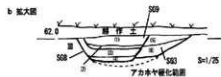
第13图 A1·A2区遺構分布图 (1/250)



第14圖 A1区遺構分布圖 (S=1/200)



- 8 G 5・7、8 G 8に関する註記**
- (1) Hae01R12/1黒色土 粘質土、粘性強く、シルトに多い。
 - (2) Hae01R3/1黒褐色土 粘質土、やや粘質な土で、粘性強くシルトに多い、灰層の右側にはアカホヤの殻がわずかに散在する。
 - (3) Hae01R4/1褐色土 粘質土、硬質な土で、粘性強く、シルトに多い、灰層の右側にはアカホヤの殻がわずかに散在する。
 - (4) Hae01R2/1黒色土 粘質土、やや灰色を帯びる、やや粘質な土で、シルトに多い。
 - (5) Hae01R2/1黒色土 粘質土、やや灰色を帯びる、やや硬質な土、粘性強く、シルトに近い。
 - (6) Hae01R4/1黒褐色土 やや灰色を帯びる、粘質な土。
 - (7) Hae01R4/1黒褐色土 硬質な土、アカホヤブロックが散在する。
 - (8) Hae01R4/1黒褐色土 硬質な土。
 - (9) Hae01R3/1黒褐色土 礫化層、白色粒が散在する。腐というよりもブロックに近い。
 - (10) Hae01R3/3暗褐色土 礫化層、白色粒が散在する。

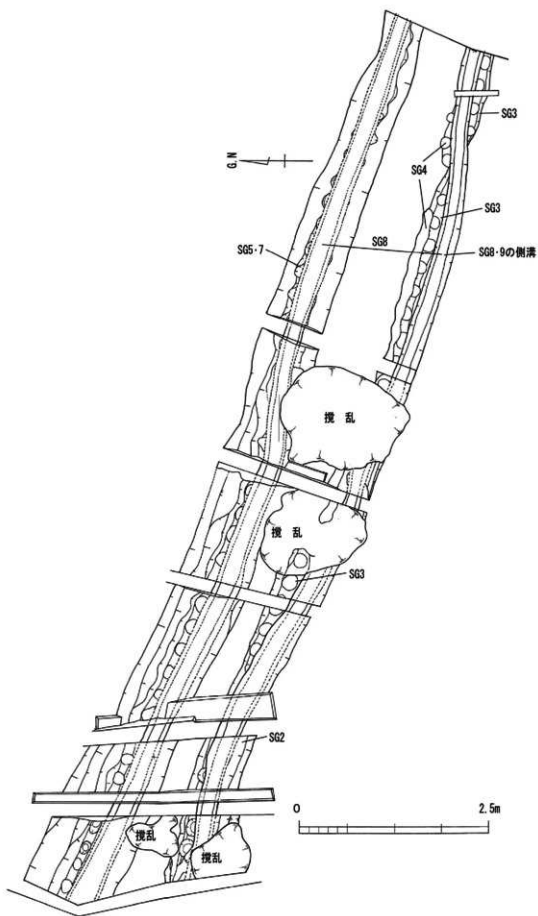


- 8 G 3、8 G 8・9の礫層に関する註記**
- (1) Hae01R12/1黒色土 しまっている。粘性ほとんどなし、シルト質、1mm以下の白色粒と褐色土の粒をわずかに含む。
 - (2) Hae01R12/1黒色土 しまっている。粘性ほとんどなし、若干礫化しており、多少夾層がある。1mm以下の白色粒と褐色土の粒をわずかに含む。
 - (3) Hae01R12/1黒色土 しまっている。やや粘性あり、シルト。若干灰色土あり、1mm以下の白色粒と褐色土の粒を少量含む。
 - (4) Hae01R2/1黒色土 しまっている。粘性ほとんどなし、1mm以下の白色粒と褐色土の粒を含む。多少砂質。土は粘着性土に近い、しまっている。粘性ほとんどなし。
 - (5) Hae01R12/1黒色土 しまっている。粘性ほとんどなし、1mm以下の白色粒と褐色土の粒を少量含む。
 - (6) Hae01R3/1黒色土 硬くしまっており、粘性なし。人工的に押し流められている。1mm以下の白色粒と褐色土の粒を含む。腐るとごらつきがある。若干暗褐色土が散在する。

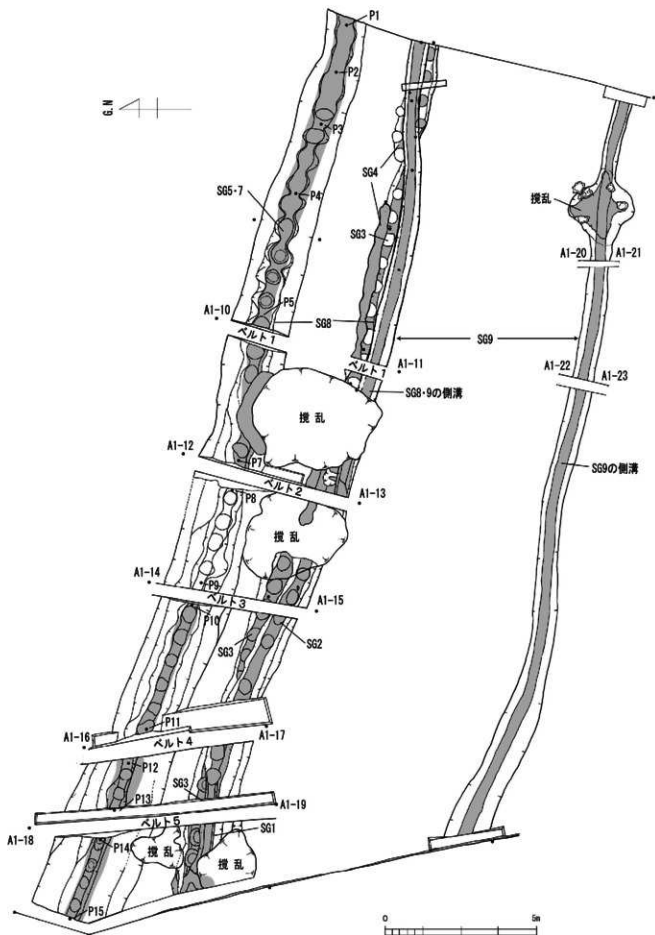


- 8 G 9の礫層に関する註記**
- (1) Hae01R12/1黒色土 しまっている。粘性あり、シルト質。
 - (2) Hae01R12/1黒色土 しまっている。粘性ややあり、シルト質、1mm以下の白色粒と褐色土の粒を少量含む。若干灰色に多い。
 - (3) Hae01R2/1黒色土 硬くしまっており、粘性なし、1mm以下の白色粒と褐色土の粒を含む。
 - (4) Hae01R2/1黒色土 あまりしまっていない。やや粘性あり、シルト質、1mm以下の褐色土の粒を少量含む。多少夾層あり。腐るとごらつきがあり、砂質。暗赤褐色土が散在する。

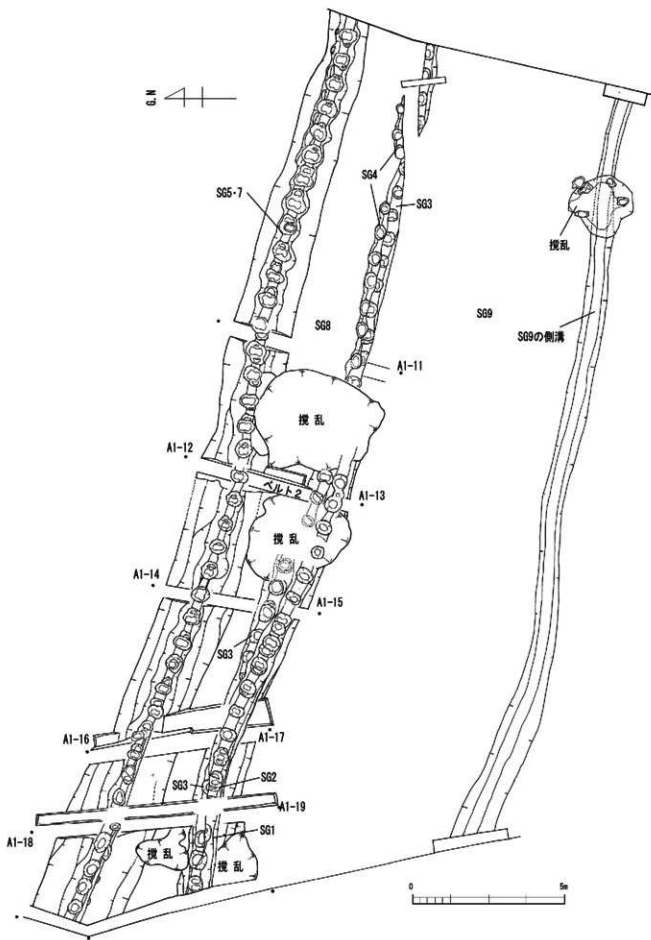
第15図 A1区東壁土層図 (S=1/80)



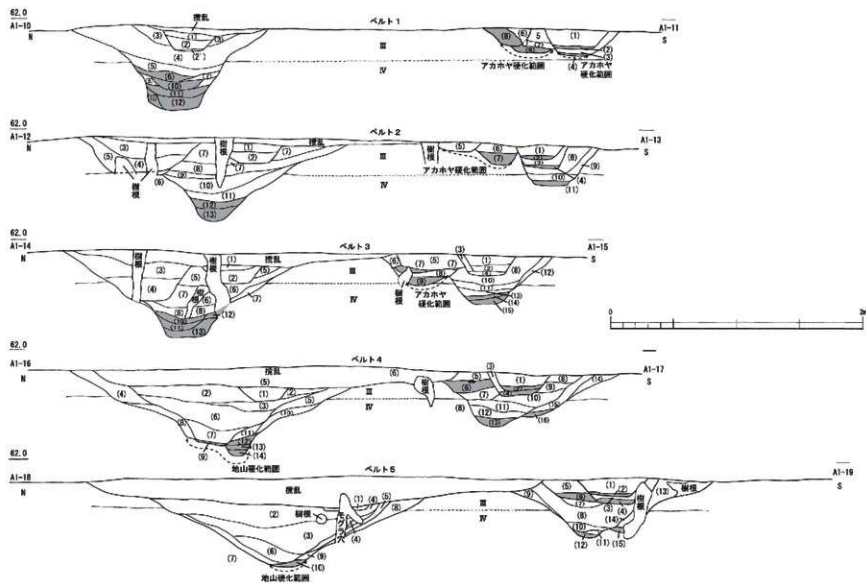
第17図 A1区北部遺構分布図 (SG8の側溝 SG9の側溝復原付) (S=1/50)



第18図 A1区道路状遺構に伴う波板状凹凸面検出状況図 (S=1/100)

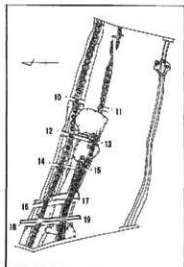


第19図 A1区道路状遺構に伴う波板状凹凸面ビット検出状況図 (S=1/100)

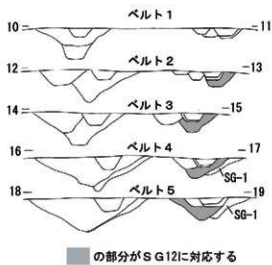


第20図 A1区SG5・7、SG1~4、SG8・9の側溝に関するベルト土層図 (S=1/30)

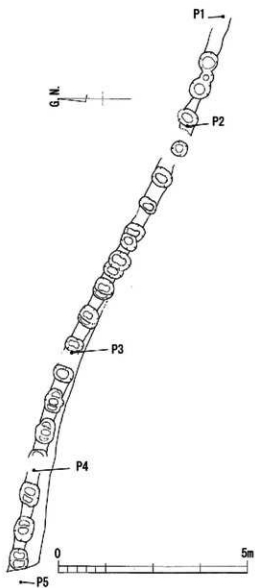
平面図



断面図

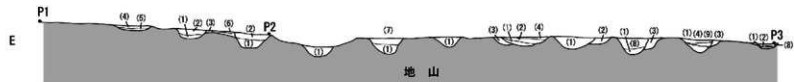


A 1区SG2切り合い関係模式図

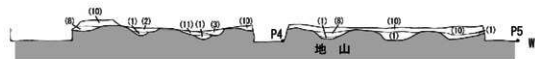


第21図 A 1区SG2平面図 (S=1/100)

62.0



62.0

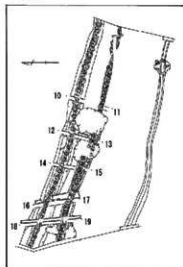


A1区SG2

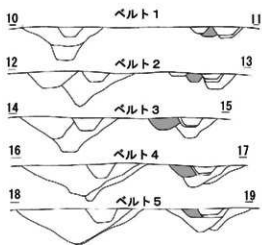
- (1) 土質10933/2 赤褐色土。非常に硬く締まっている。部分的に赤褐色の雲状の膜が縦横に広がっているのが見える。
- (2) 土質5.014/1 黄褐色土。粒子の粗さが細かく、粘土質で硬く締まっている。
- (3) 土質513/1 オリーブ黒色土。非常に硬く締まっている。黄褐色の土が膜かに入り込んでいる。
- (4) 土質10934/1 黒褐色土。粒子が粗かく、湿り気を含び、硬く締まっている。
- (5) 土質10932/2 赤褐色土。湿り気があり、粘土質で硬く締まっている。アカネやゴブレットが混じっている。
- (6) 土質10937/1 黒褐色土。さらさらの細粒質。ブロックで固まっている。
- (7) 土質2.016/1 黄褐色土。黄褐色のブロックが入り、縦方向に数本の膜が見える。
- (8) 土質514/1 粒子が粗かく、硬く締まっている。キョット強い力で押し付けられた感じ。
- (9) 土質5.013/1 赤褐色土。
- (10) 土質514/1 灰色土。
- (11) 土質7.013/1 黒褐色土。

第22図 A1区SG2断面図 (S=1/40)

平面図

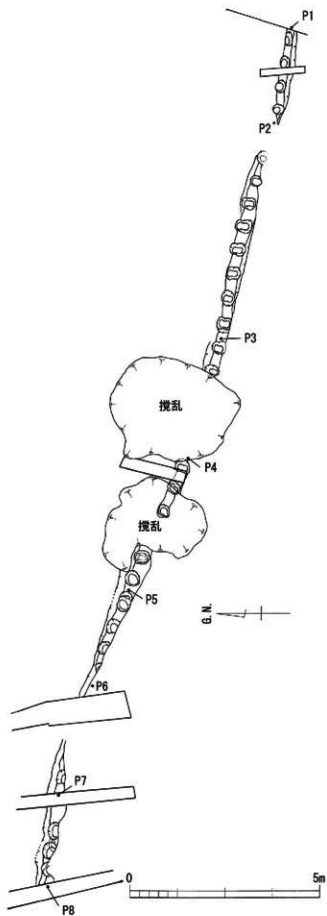


断面図

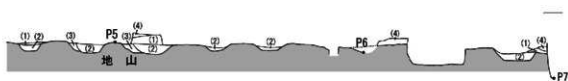
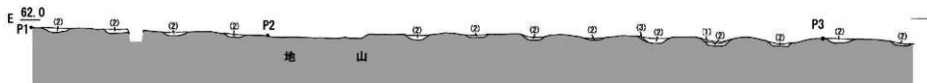


■の部分 SG3 に対応する

A1区SG3切り合い関係模式図

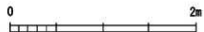
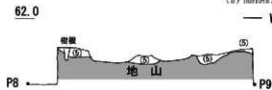


第23図 A1区SG3平面図 (S=1/100)



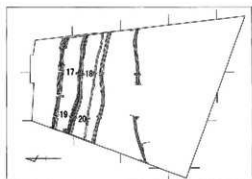
渡板状凸面(A1区・SG3)の土層断面図に関する註記

- (1) Rso10R1 7/1
 灰色土。硬く締まっている。粘性ややあり。ざらざらした砂質の質感。1mm以下の白色粒子と褐色粒を多量に含む。若干の鉄質あり。
- (2) Hso10R1 7/1
 褐色土。硬く締まっている。粘性ややあり。暗赤褐色の細かい鉄質が入っている。
- (3) Hso10R2 2/2
 褐色土。硬く締まり。粘性あり。
- (4) Hso10R2 2/2
 褐色土。硬く締まり。粘性ややあり。ざらざらした砂質の質感。1mm以下の白色粒子と褐色粒を多量に含む。
- (5) Hso10R2 2/1
 褐色土。硬く締まり。粘性ややあり。ざらざらした砂質の質感。1mm以下の白色粒子と褐色粒を多量に含む。



第24図 A1区SG3断面図 (S=1/40)

平面図

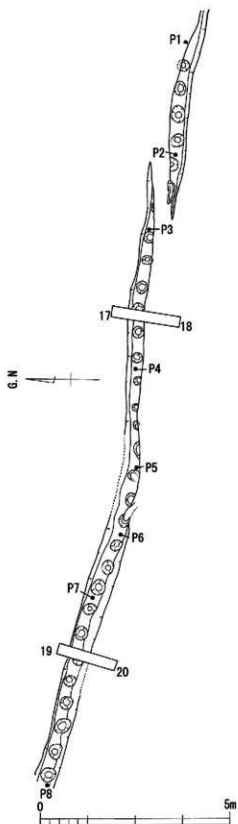


断面図

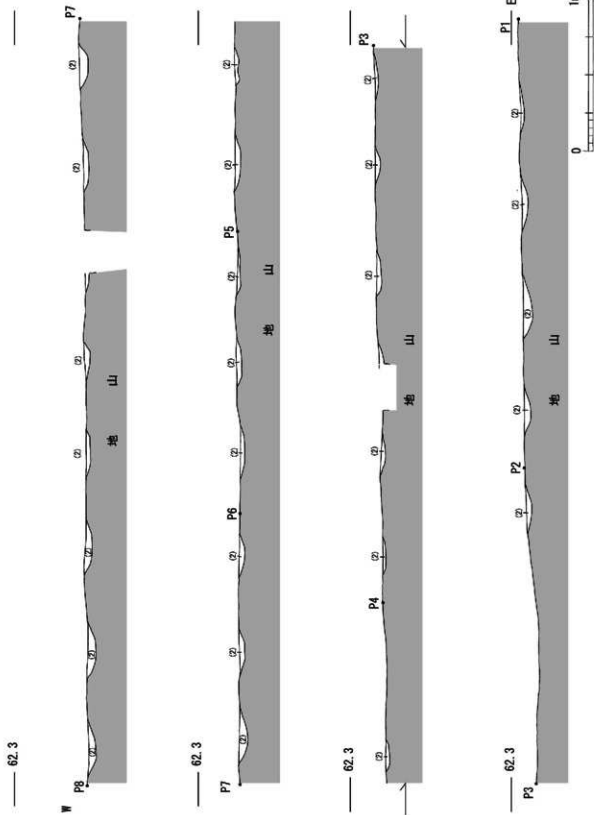


■ の部分がSG3に対応する

A1区SG3切り合い関係模式図



第25図 A2区SG3平面図 (S=1/100)



第35图 A 2区SG3断面图 (S = 1/25)

びているが、攪乱から西の部分に関しては、検出できなかったが、SG3の北隣付近に残存していた可能性がある。東端は削平を受け、調査区東壁際あたりで消滅している。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。掘り込みの深さは最大で約14cmを測るが、上部削平のため本来はそれ以上あった可能性はある。断面は、底の広いU字形を呈している。路面を想定する遺構底部の幅員は20cm前後で、その地山はほぼ連続的に硬化している。また4cm程度の硬化層が形成されている部分も検出した。また、地山や硬化層上に10基のビットを確認した。これらのビットの上場は、ほぼ円形を呈している。また、ビットの基底部の長さや形に注目した場合、ビットの軸方向の長さは、平均17cmであり、形は円形、縦長楕円形のものがある。ビット間の心々距離は、平均66cmであり、ビットの深さの平均は、9cmである。さらにビットの埋土は、1種類である。硬く締まっているという特徴をもっている。遺物は出土していない。

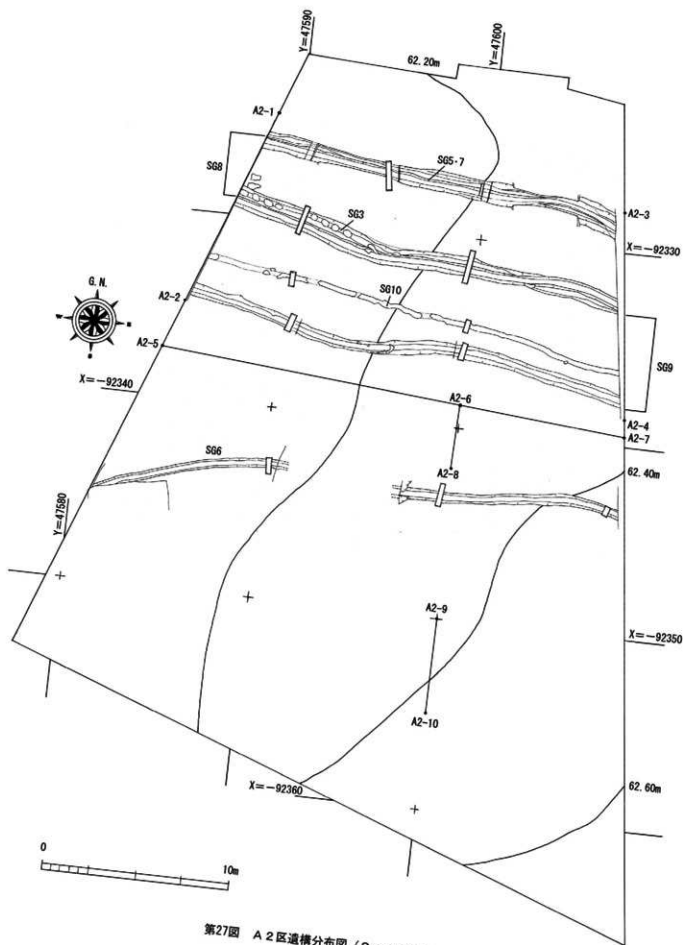
SG5 (第33～34図)

A1区・A2区の北部で検出した道路状遺構である。地山を掘り込んで作られている。ほとんど直線的に西端、東端ともに調査区外へと延びている。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。A1区では、SG7によって法面や上場は殆ど削られており、路面のみの検出であった。A2区では、SG8の北側側溝を除去して検出することができた。SG7によって削られていたが、路面と北側壁の一部分を検出することができた。掘り込みの深さはA1区の西部付近で約70cmを測るが、上部削平のため本来はそれ以上あったと思われる。A2区の東壁付近では、約22cmとなっている。断面は、なだらかなU字形を呈している。第1期路面(地山)を想定する遺構底部の幅員は24cm前後で、連続的に硬化している。またその上には硬化層が途切れなく載っており、特に中央部付近では14cm程度の厚い硬化層が形成されているのを確認した。また、第1期路面(地山)に、52基のビットと幾つかの小さな回みを確認したが、それらは硬化層の上または地山から掘り込まれていた。深いビットは硬化層の厚い部分に存在

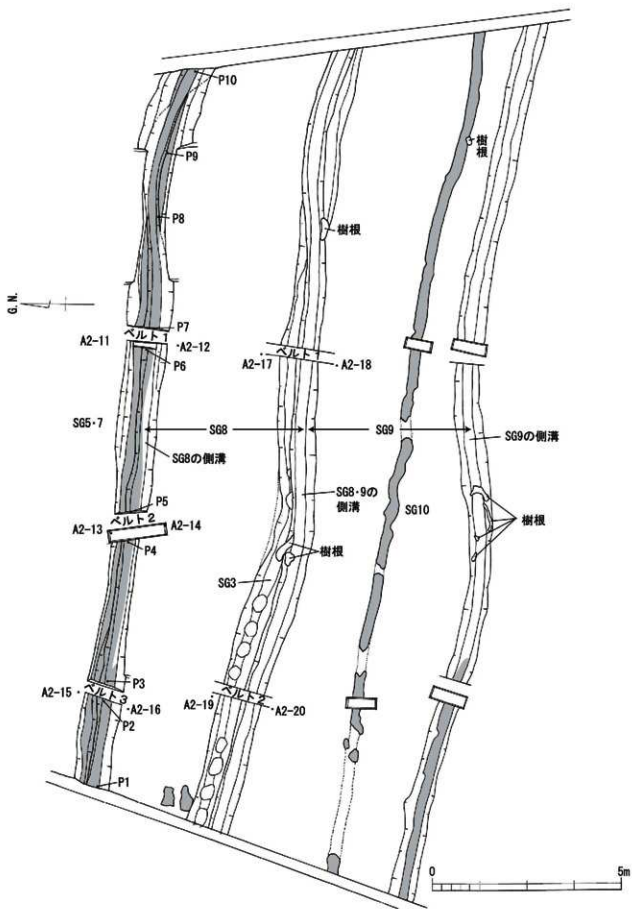
し、回み程度の浅いビットは硬化層の薄い部分で検出した。これらのビットの上場は、円形や横長の楕円形のは少なく、進行方向(軸方向)に対して縦長の楕円形がほとんどで、縦長の楕円形を呈しているものもあった。また、ビットの基底部の長さや形に注目した場合、A1区のビット(29基)の軸方向の長さは、平均17cmであり、形は横長の楕円形を中心として、楕円形のものもある。さらに駱駝の瘤状に基底部が二つあるものもあった。ビット間の心々距離は、平均63cmで、ビットの深さの平均は、18cmである。さらにビットの基底部は硬化しており、特に基底部がアカホヤ中にある場合は、アカホヤが硬化しているだけでなく、赤く錆びたような色に変色しているものが多く見られた。また、ほとんどのビットの肩はなだらからず、東西どちらかの壁に棚部をもっていた。ビットには、1～6種類の土が入っており、いずれも硬く締まっているという特徴をもっている。またビットの埋土の最下部には、強い圧縮を受けたような時にできる茶褐色の横線の入った土、中間部に川砂のような目の粗い土、上部にはアカホヤが混じったような土が入っている傾向が見られた。遺物はなく、ビットの中や埋土に礫が混じる程度であった。

SG6 (第41～47図)

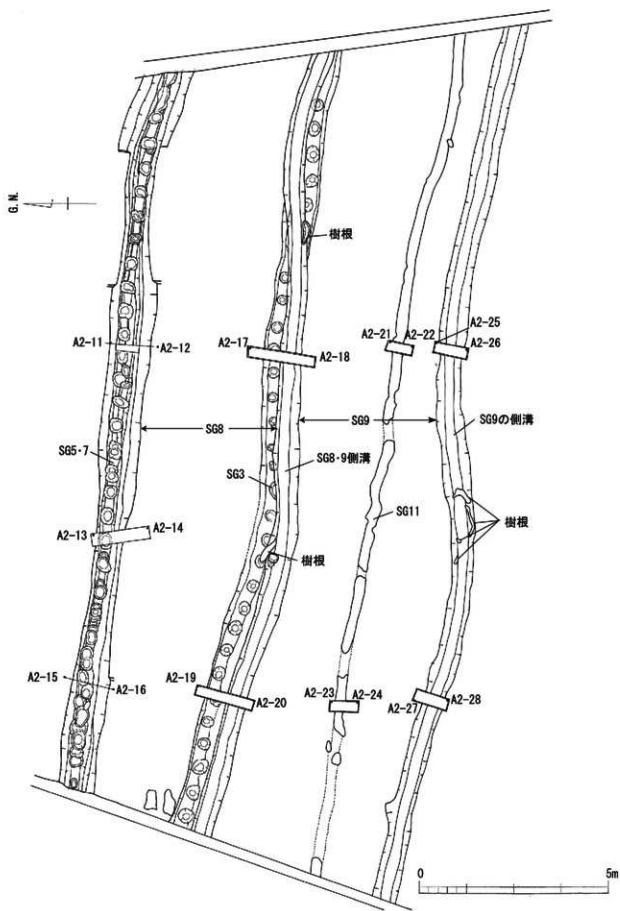
A1区・A2区の南部で検出した道路状遺構である。緩やかに蛇行しながら、西端も東端も調査区外へと延びている。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。切り合いは見られず、地山を掘り下げて作られていた。掘り込みの深さはA1区の西部付近で約20cmを測るが、上部削平のため本来はそれ以上あったかもしれない。A2区の東壁付近でも、深さ約20cmである。A1区の東部分は、路面も削平を受け、僅かに光沢のある痕跡が残され、部分的に硬化面も残されていた。断面は、なだらかな底の広いU字形を呈している。路面の幅員は28cm前後で、ほぼ連続的に硬化している。顕著な硬化層は検出されなかった。また路面に、明確なビットは確認されなかったが、A1区では調査区中央部に上場の長径28cm～48cm、短径26cm～30cm、深さ2cm～3cmの浅い回みを3基検出した。いずれも縦長の楕円形であ



第27圖 A2區道橫分布圖 (S=1/200)

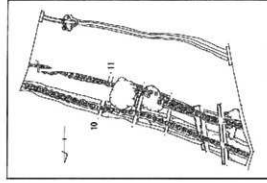


第28図 A2区道路状遺構に伴う硬化層検出状況図 (S=1/100)



第29図 A2区道路状遺構に伴う波板状凹凸面ビット検出状況図 (S = 1/100)

平面図



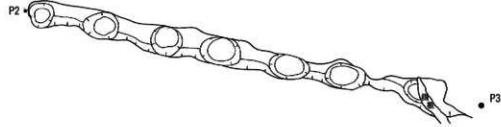
G2.0



波状凹凸面(A1区・SG4)の土層断面図に関する註記

- (1) floor 1913.7/1 黒色土。硬く固まっている。粘性なく、やや砂質でざらざらしている。1mm以下の白色粒子と褐色粒を多数に含む。
 (2) floor 1913.2/1 黒色土。土が崩れやすいため、粘性が若干ある。シルト質。1mm以下の白色粒子と褐色粒を少量含む。

P1



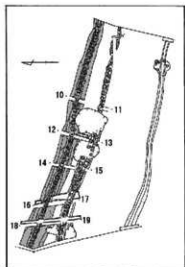
断面図



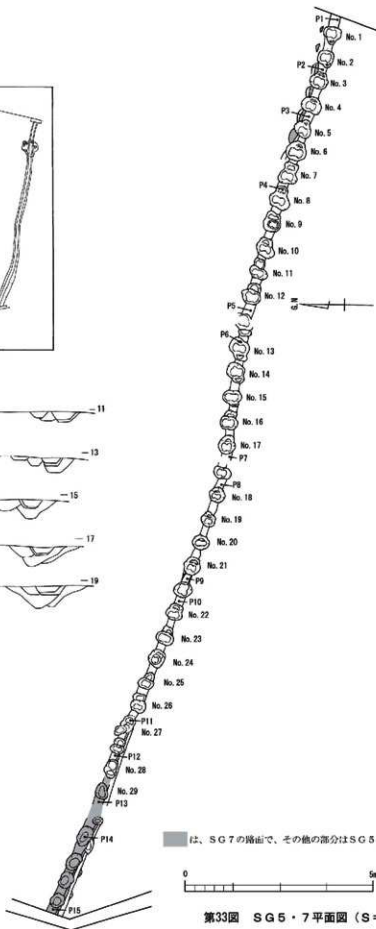
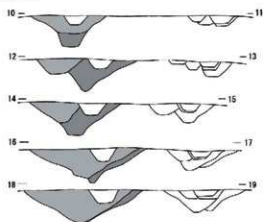
A1区 SG6切り合い関係模式図



平面図



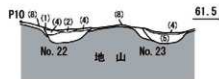
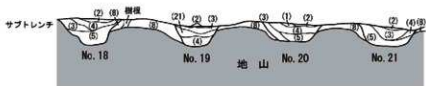
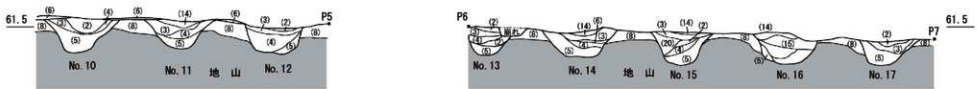
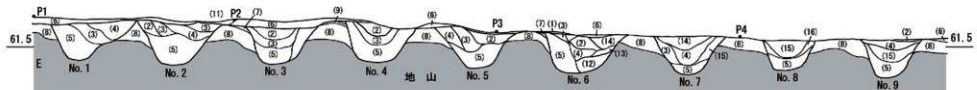
断面図



■は、SG 7の路面で、その他の部分はSG 5の路面に想定される。



第33図 SG 5・7平面図 (S = 1/100)

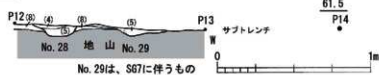


諸般地質の面(A・B・C)の土質断面図に對する説明

- (1) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (2) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (3) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (4) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (5) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (6) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (7) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (8) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。

- (9) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (10) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (11) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (12) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (13) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (14) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (15) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。
 (16) 表層の土質は、粘土質の砂である。土質が硬く、水分を多く含む。

- (17) No.5Y2/1 黒色土、おもむきが強く、上から強い方がかかったような感じがする。黒色の塊が断面に露出している。
 (18) No.5Y4/2 灰土、非常に硬く締まっている。黒色の塊が断面に露出している。
 (19) No.5Y2/2 灰土、非常に硬く締まっている。黒色の塊が断面に露出している。
 (20) No.5Y2/2 灰土、非常に硬く締まっている。黒色の塊が断面に露出している。



No. 29は、SG7に伴うもの



第34図 A1区SG5断面図 (S=1/25)

る。また、A2区でもとところろに浅い凹みが見られた。遺物は、須恵器片5点、土師器片5点出土した。そのうち床直の須恵器片3点が、SG7の須恵器片1点と接合した。従って、SG7とSG6が、同一時期に存在していた可能性もある。

SG7 (第30・33図)

A1区・A2区の北部で検出した道路状遺構である。SG5を掘り直して作られている。ほとんど直線的にSG5に沿って調査区外へと延びている。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。A1区では、西壁付近のSG5との明確な切り合い状況によって3.7m分の路面を確認することができた。しかし、SG5を掘り直す形で作られているため、路面を確実に掘り出すことができなかった。またA2区でも、土層用のベルトでは確認できたが、SG8の側溝によって大きく削られているため、路面と南側壁の一部分を検出するにとどまった。掘り込みの深さはA1区の西部付近で約70cmを測るが、上部削平のため本来はそれ以上あったと思われる。A2区の東壁付近では、約22cmとなっている。断面は、なだらかなU字形を呈している。路面(地山)の幅員は23cm前後で、連続的に硬化しているが、硬化層は検出されなかった。また路面(地山)に、明確なピットは確認されなかったが、A1区東西壁間に上場の長径28cm～56cm、短径32cm～34cm、深さ2cm～3cmの凹みを5基検出した。いずれも縦長の楕円形である。

遺物は、須恵器片4点(第68図10・11・13)、土師器片3点、石器4点(第69図19～22)が出土した。特にA1区東壁際の床直の須恵器片が、SG6の須恵器片3点と接合する点は、留意する必要がある。また、この接合資料10(甕・口縁～頸部)は、宮崎県内では類似する資料に乏しいが、あえて時期比定をするために、甕の口縁端部のつくり注目するならば、古代以降の甕の口縁端部の形状とは異なるため、古墳時代後期頃(6世紀後半)の所産と推定される。

SG8 (第48～52図)

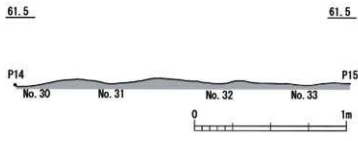
A1区・A2区の北部で検出した両側側溝付の道路状遺構である。やや蛇行しながら西端、東端とも

に調査区外へと延びている。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。SG8は、埋まったSG5・7の切り通し部分とSG1・2・3・4の切り通し部分を再利用する形で2本の側溝を掘り込み、その間を路面として使用したものと思われる。側溝は幅約85cm、検出面からの深さ約25cmを測る(第30・31図)。北側の側溝は、A2区ではSG7の硬化層を切っていたために、明確に検出できたが、A1区では、埋土の中に側溝が掘られたため、確実に掘り出すことができなかった。ベルトや壁、攪乱付近に残っていた溝の痕跡から推定した。南側の側溝は、A2区では、明確に残存していたが、A1区では、利用した道路状遺構の切り通し部分が徐々に深くなっていったために、西の部分を完全には明らかにすることができなかった。ただし、SG3を切っていたために、その切断面から側溝のコースを推定することができた。側溝の断面は、逆台形で、南・北側溝の下場のレベルに極端な差異は見られない。また、路面については、A1区では削平が激しく検出できなかったが、A2区の西壁の中及びその近くの平面上で硬化層の痕跡を確認することができた。路面の幅員は、路面そのものが削平されているため、計測できないが、A1区の1mごとの側溝間の心々距離の平均が2.46m、A2区では4.09mとかなり違いを見せる。A1区とA2区を合わせた場合の平均は、3.2mであるが、路面の位置が、もう少し高い位置にあったと想定すれば、幅員はもっと狭くなるはずである。

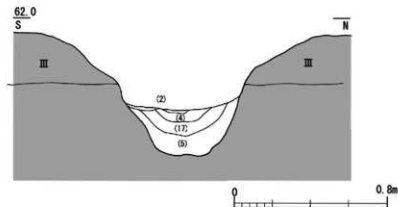
遺物は、僅かに土師器片が3点出土したのみである。

SG9 (第53～58図)

SG8の南側で検出した両側側溝付の道路状遺構である。やや蛇行するものの、SG8よりもさらに直線的である。西端、東端ともに調査区外へと延びている。主軸は、概ね東南東から西北西の方角に下っている。SG9は、SG8の南側溝を再利用する形で掘り直し、その側溝に対応させて、新しい側溝を南側に掘り、その間を路面として使用したものと思われる。側溝は幅約45cm、検出面からの深さ約16cm

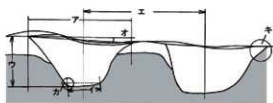


第35図 A1区SG7断面図 (S=1/25)



- (2) Iha2.073/2 砂粒がやや濃い黒褐色土に、アカホヤが多量に混じっている。道目には、そこだけ黄色みがかって見える。
 (4) Iha3.12/1 オリーブ褐色土。乾子が散く、河砂のような土。道中にアカホヤが入り込んでいる。
 (5) Iha109.07/3 黒褐色土。何層も腐葉を受けたように、こげ色の腐葉が根本も見られる。非常に細く細まっている。
 (17) Iha107.3/1 オリーブ黒色土。乾子が大きくざらざらしている。

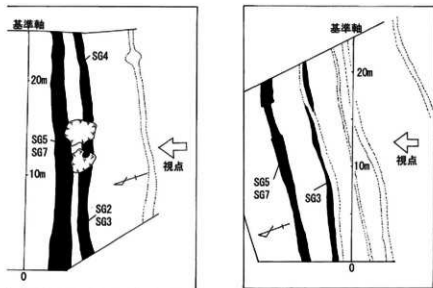
第36図 A1区SG5のビット (No. 9) 断面図 (S=1/20)



【計測する項目について】

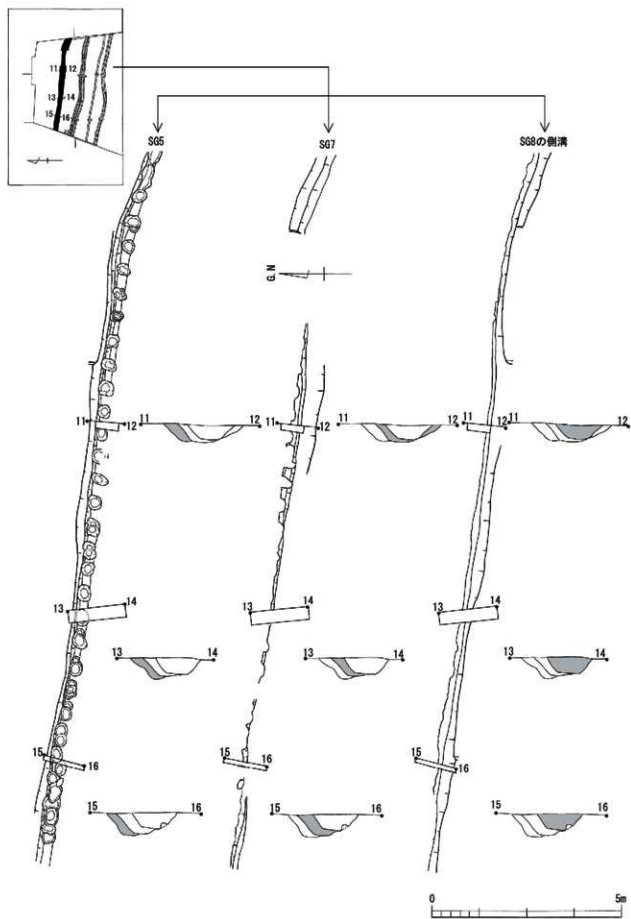
- ア ビットの開口の軸方向の長さ (cm) 基準基準は変換点～変換点を計る。
 イ ビットの基底部の軸方向の長さ (cm) 変換点から基底部の最深部までを測る。
 ウ ビットの深さ (cm) 変換点から中心部より最深部のビットの中心部までの距離を測る。
 エ 中心距離 (cm) 変換点から西を見た基準からの角度を測る。
 オ 傾斜角 (°) 変換点・中央・西で記入。
 カ ビットの最深部の位置 変換点・中央・西で記入。
 キ 左の面の有無 変換点・中央・西で記入。
 ク ビットの材質 変換点・中央・西で記入。
 既定の数字は、() 書きする。

第37図 道路状遺構に伴う波板状凸凹面観察基準図



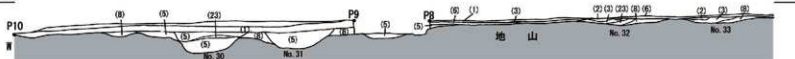
■は、波板状凸凹面を持つ道路状遺構

第38図 波板状凸凹面比較の為の基準軸提示図



第39図 A2区SG5・7、SG8の側溝の切り合い関係模式図と平面図 (S=1/100)

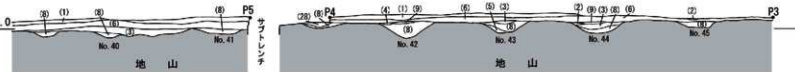
62.0



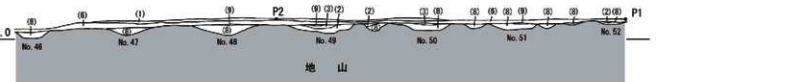
62.0



62.0



62.0



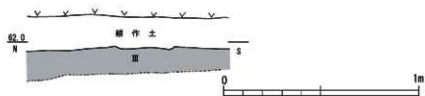
波新状凸面(A区・S G 5)の土層断面図に関する注記

- (1) Ibc2.213/3 暗オリーブ褐色土。非常に硬く締まっている。土がゼント上から押さえられたような様相。断面によっては、黒ずんで見える。
- (2) Ibc2.213/2 赤褐色がやや深い黄褐色土に、アカネヤが多量に混じっている。露目には、そこだけ黄褐色が広がって見える。
- (3) Ibc4.013/1 黒褐色土。上から積戻されたようで、ふわり硬く締まっている。粒子は細かく、(4) Ibc 613/1 オリーブ褐色土。粒子が粗く、川砂のような土。断面にアカネヤが入り込んでいた。
- (5) Ibc1.012/3 黒褐色土。何回も積戻を受けたようで、こげ茶色の繊維が何本も見られる。非常に硬く締まっている。
- (6) Ibc1.011/3 黒褐色土。軟く締まっていて、上から強い力で積戻を受けたような印象を受ける。
- (7) Ibc 514/2 淡オリーブ色土。層状な黄褐色土が混入し入り込んでいる。

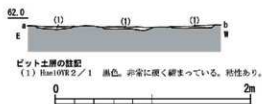
- (8) Ibc1.013/4 塊状土。非常に硬く締まっている。
- (9) Ibc 515/4 オリーブ色土。灰色の凝結な軟子岩層に入り、硬く締まっている。
- (23) Ibc1.013/3 弱い黄褐色土。
- (24) Ibc7.013/1 オリーブ褐色土。粒子が細かく硬く締まっている。
- (25) Ibc1.013/3 暗褐色土。硬く締まり、粘着有り。
- (26) Ibc1.012/1 黒褐色土。硬く締まっている。植物はとんどなく、砂質である。自然の地と褐色の粒が入り、粗ると虫洞のような音がする。
- (27) Ibc7.011/1 褐色土。粘性ややあり。硬く締まっている。やや砂質で、褐色の粒を含む。非常に締まったような色。
- (28) Ibc1.013/3 黄褐色土。硬く締まり、粘り有り。シルト質。



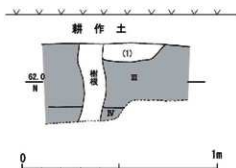
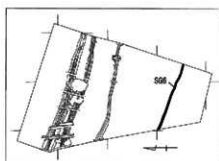
第40図 A2区SG5断面図 (S=1/25)



第42図 A1区SG6東壁土層図 (S=1/20)

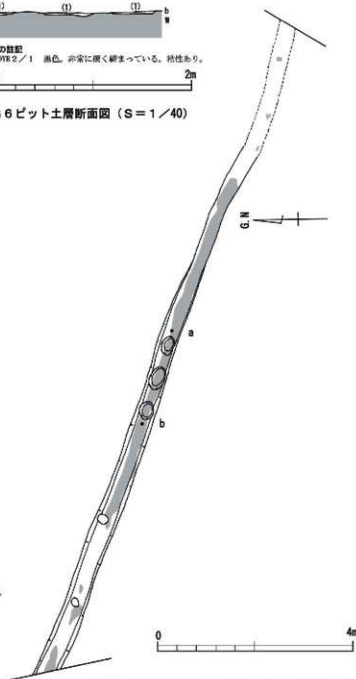


第43図 A1区SG6ピット土層断面図 (S=1/40)

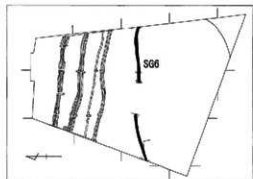


西壁の註記
 (1) Hs10YR2/1 黒色。締まりがあり、やや粘性あり。シルト質。アラホキを少量含む。

第44図 A2区SG6西壁土層図 (S=1/20)



第41図 A1区SG6平面図 (S=1/80)



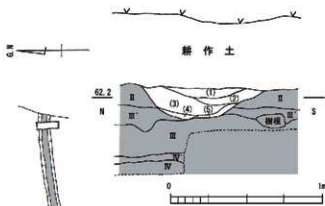
第45図 A2区SG6平面図 (S=1/150)



第46図 A2区SG6東壁土層図 (S=1/25)

東壁の註記

- (1) 照109E. 7/1 黒色土、やや締まりあり、固結質土、微細砂子土で、ガラス粒を含む。
- (2) 照109E. 7/1 黒色土、締まりあり。(1)より粘性が高い、微細砂子土で、ガラス粒を含む、薄層に小ブロッコ状に付まっている。
- (3) 照109E. 7/1 締まりあり、凝結質微細砂子土、ガラス粒を含む。



第47図 A2区SG6西壁土層図 (S=1/25)

西壁の註記

- (1) 照109E. 7/1 黒色土、やや締まりあり、凝結質土で、微細砂、ガラス粒を含む。
- (2) 照109E. 7/1 黒色土、やや締まりあり。(1)より若干粘性がある。微細砂子土で、ガラス粒を含む。
- (3) 照109E. 7/1 黒色土、締まりあり、凝結質土で、微細砂了で、ガラス粒を含む、アサキヤが混入する。
- (4) 照109E. 7/1 赤土、非常に固く硬まる、凝結質微細砂子土で、ガラス粒を含む。
- (5) 照109E. 7/1 黒色土、締まりあり、凝結質微細砂子土で、ガラス粒、アサキヤ粒を全量に含む。



を測る(第30・31図)。南側の側溝は、A1・2区ともに樹根による攪乱はあったものの切り合いもなく明確に検出できた。北側の側溝の切り合い関係は、ベルトや壁で確認した。側溝の断面は、逆台形で、南・北側溝の下場のレベルは若干北側の側溝が南に比べて下がるものの極端な差異は見られない。また、路面については、A1区では削平が激しく検出できなかった。黒色土層(II層)中で遺構検出を図ったA2区でも路面を検出することはできなかったが、A2区西側壁に路面の痕跡を検出することができた。路面の幅員は、削平されているため、計測できないが、A1区の1mごとの側溝間の心々距離の平均が5.96m、A2区では4.8mと違いを見せる。A1区とA2区を合わせた場合の平均は、5.4mである。

遺物は、A1区では土師器の小片(胴部付近・長径1cm程度の)34点が側溝から出土し、そのうち31点が、北側溝の一箇所に極端に集中しているのが見られた(第65図)。またA2区では、土師器の小片(胴部付近・長径1cm程度)が11点、須恵器の小片が1点側溝から出土したが、特に集中区もなく時期決定に至るものもなかった。また、A2区の推定路面より上層の黒色土層中より109点の土師器の小片(胴部を中心に脚部や口縁部)と須恵器片(口縁部)1点が、SG9の東部あたりの上層で集中して出土した(第67図)。接合資料が8点あり、そのうちの1点は、A1区のSG9の側溝から出土した土師器片と接合できることから、おそらくこれらの土師器片は、SG9に伴っていたものと推定する。

SG10(第28図)

A2区のSG9の路面上付近で検出した3mm程度の厚みをもった硬化層のみの道路状遺構である。掘り込みは見られず、盛上も見られなかった。わずかに蛇行しながら、東端は調査区外へと延びているが、西端はA2区西壁まで続き、A1区では消滅している。A2区の東西壁でも硬化層が確認できた。遺物は何も出土していない。

SG11(第29・62・63図)

C区で検出した側溝付の明瞭な硬化層をもった道路状遺構である。路面は直線的に西端、東端ともに調査区外へと延びている。主軸は、概ね南東から北西の方角へわずかに下っている。路面の東側のほと

んどは耕作機械によって攪乱されている。さらに南側は用水路のために切られ、畦を作るために盛土がなされている。また残っていた路面についても、確認調査の時点で、一部を除去してしまったために、明確に全体を掘り出すことができなかった。調査区内における残存している路面の幅員は、広いところで約3.5mである。路面は、硬化層(7cm~10cm)の上と推定される。路面は、部分的に凹凸があるものの、総じて良い状態を保っており、轍の跡などの明確な痕跡は検出できなかった。また、硬化層の脇には溝を断続的に検出し、側溝の可能性を考える。遺物は、表採で寛永通宝が1点、陶磁器片が10点路面上や遺構近辺から出土している。なかでも18(第68図)は、体部に花卉が描き入れられており、近世末の磁器片と時期比定できた。

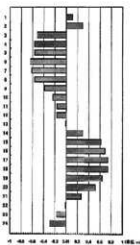
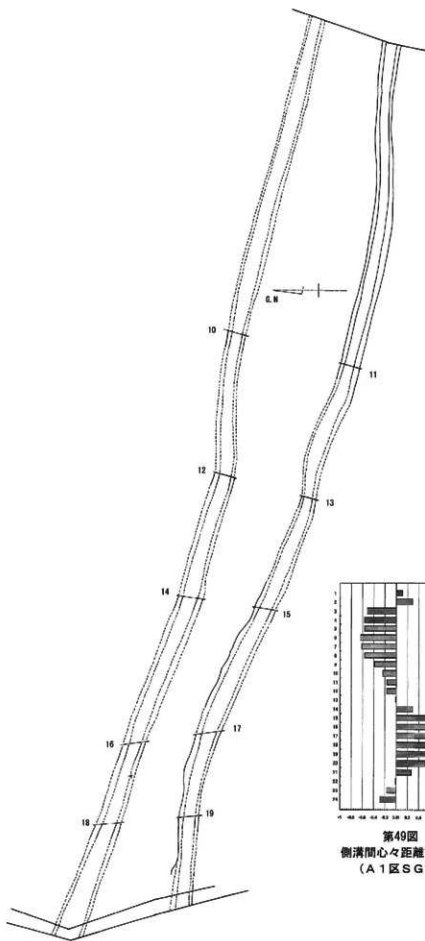
SG12(第59~61図)

B区で検出した轍跡のある道路状遺構である。路面は直線的に西端、東端ともに調査区外へと延びている。主軸は、おおむね南東から北西の方角へわずかに下っている。路面には、並行する2本の細い溝が深く掘り込まれている。溝の心々距離は、90cm~92.5cmで推移している。溝の断面はV字形であり、溝の中には、硬化した黒色土が詰まっていただけでなく、溝と溝の平坦部も、断続的に硬化しており、こも路面として使われた可能性を考える。溝も含めた幅員は、約1.5mである。遺物は、溝の底から1点のみ近代の磁器片が出土した。

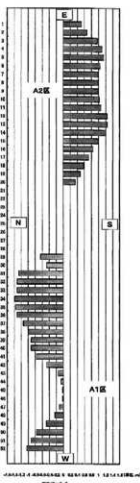
SG13~SG16(第62図)

C区で検出した複雑に切りあった道路状遺構である。確認調査時に、トレンチで遺構の確認をしていたので、SG11の硬化層を除去した後、少しずつ掘り下げていった。最終的にベルトや壁で4条の道路状遺構と溝を2条確認したが、一条ごとに掘り分けることは困難であった。SG13~14の底には、硬化層が確認されたが、SG15~16には硬化層を確認することができなかった。また、地山は硬化しているものの、波板状凹凸面は検出できなかった。切り合った道路状遺構の北側には、平面的に硬化している部分があった。

遺物は、土師器片49点、須恵器片4点が出土した。



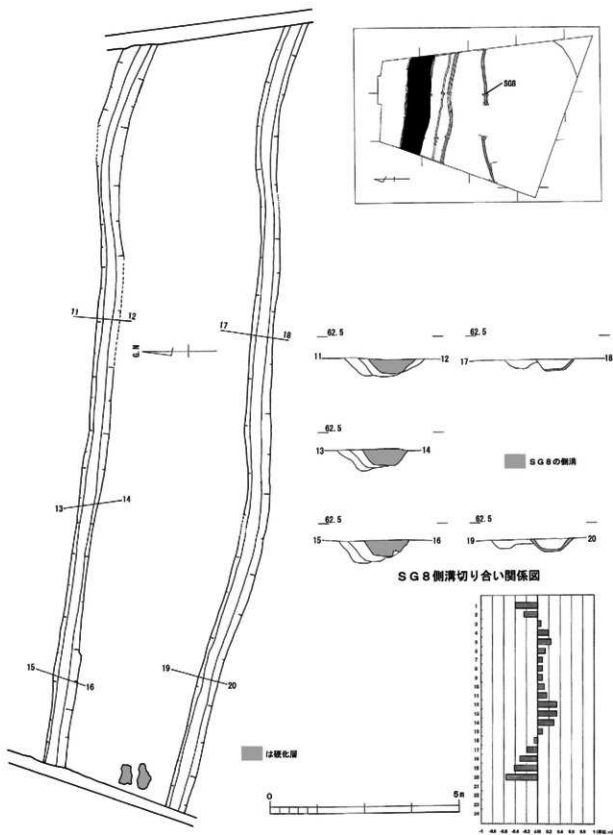
第49圖
側溝間心々距離計測圖
(A1区SGB)



第50圖
側溝間心々距離計測圖
(SGB)

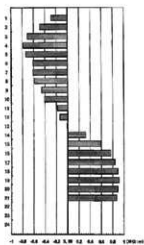


第48圖 A1区SGB平面圖 (S=1/100)



第51図 A2区SG8平面図 (S=1/100)

第52図 側溝間心々距離計測表
(A2区SG8)



第55図 側溝間心々距離計測図
42.2 (A1区SG9)



A1区SG9の側溝ベルト1の註記

- (1) Rse10W1.7/1 黒色土。締まりあり。粘性あり。シルト質。
(2) Rse10W2/2 黒色土。緩く締まり。粘性がある。礫に上部は、充実はある。1mm以下の白色泥と褐色の粒を含む。

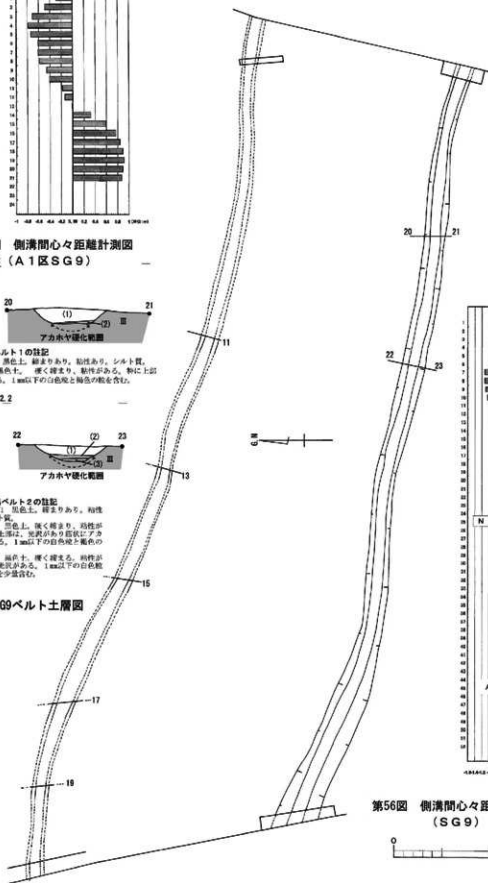
42.2



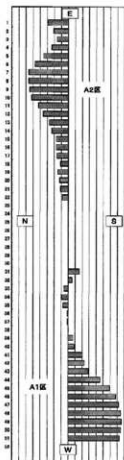
A1区SG9の側溝ベルト2の註記

- (1) Rse10W1.7/1 黒色土。締まりあり。粘性あり。シルト質。
(2) Rse10W2/1 黒色土。緩く締まり。粘性がある。礫に上部は、充実はあり礫径はアカホヤと同様である。1mm以下の白色泥と褐色の粒を含む。
(3) Rse10W2/2 黒色土。緩く締まり。粘性がある。礫に上部は、充実はある。1mm以下の白色泥と褐色の粒を少量含む。

第54図A1区SG9ベルト土層図

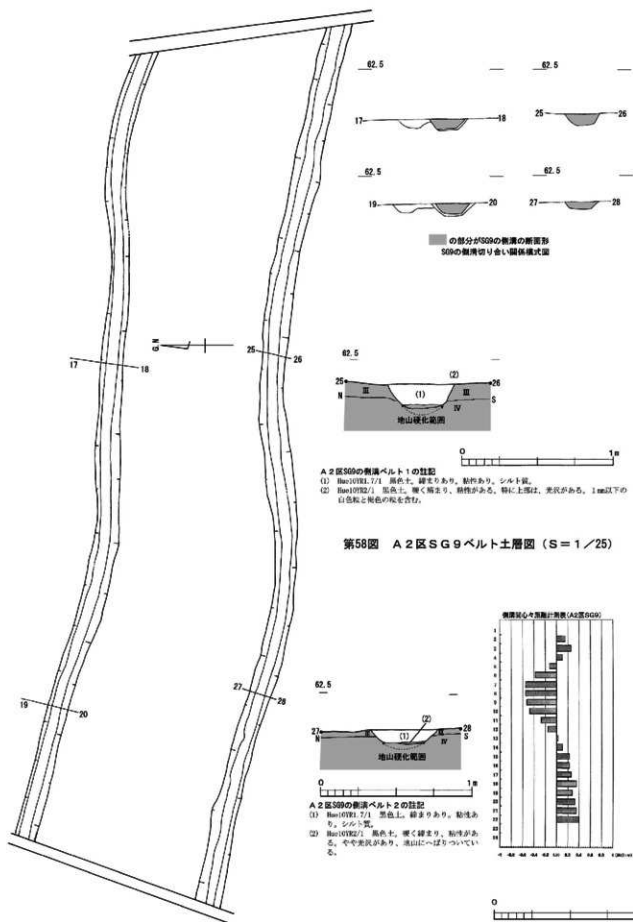


第53図 A1区SG9平面図 (S=1/100)



第56図 側溝間心々距離計測図
(SG9)

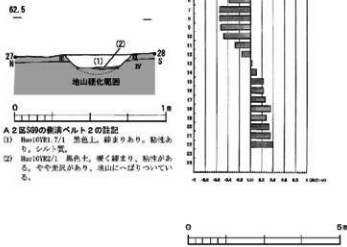




の部分がSG9の築造の断面形
SG9の築造切り合い関係模式図

A 2区SG9の築造ベルト1の註記
 (1) Hae10R1/1 黒色土。締まりあり、粘りあり、シルト質。
 (2) Hae10R2/1 灰色土。硬く締まり、粘性がある。特に上部は、夾炭がある。1m以下の
 白色粒と褐色の粒を含む。

第58図 A 2区SG9ベルト土層図 (S=1/25)



A 2区SG9の築造ベルト2の註記
 (1) Hae10R1/1 黒色土。締まりあり、粘りあり、シルト質。
 (2) Hae10R2/1 黒色土。硬く締まり、粘性がある。やや夾炭があり、崖山にへばりついている。

第57図 A 2区SG9平面図 (S=1/100)

接合するものもなく、時期比定につながるものもなかった。

2 遺物 (第68図1～18、第69図19～22)

A1区では、須恵器片7点、土師器片50点、石器4点、A2区では、須恵器片4点、土師器片125点が出土した(第64図)。またB区からは陶器片が1点、C区では、磁器片1点、須恵器片4点、寛永通宝1点、陶器片10点、土師器片59点が出土した(第28図・第66図)。土師器片も須恵器片は遺構外や攪乱中から出土するものが多く、殆どが細片で時期等は不明である。

凹石 (第69図19)

砂岩を用いた凹石で、中央部表裏にそれぞれ深さ0.8cm、0.2cmの凹みをもっており、右半分は欠損している。側縁部にも敲打痕が見られ、敲石としての利用も考えられる。

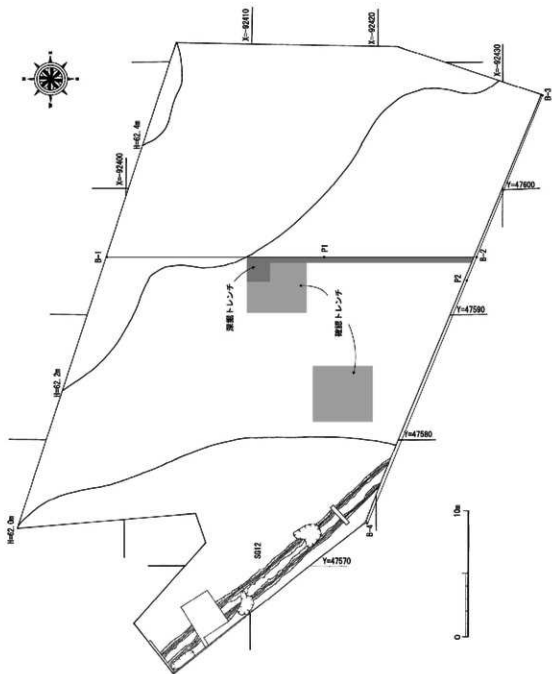
砥石 (第69図20)

棒状の形態をなし、表面は砥石としての使用面が一部剥離しており、裏面には大きく平坦な剥離面がある。表面には部分的に著しい使用痕が観察される。打製石斧 (第69図21)

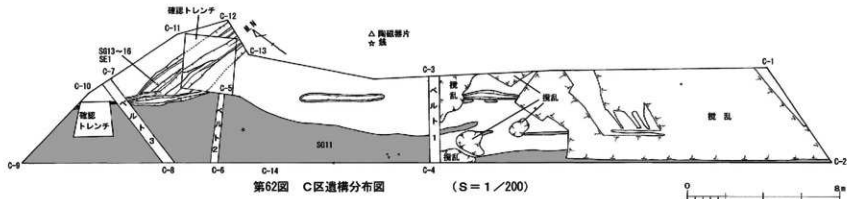
有屑石斧と呼ばれる打製石斧で、砂岩を石材としている。基部の上端部は欠損している。側辺部を左右両側縁からの粗い調整によって、厚みを取り除くように加工している。刃部には、若干調整がなされ片刃である。

石包丁 (第69図22)

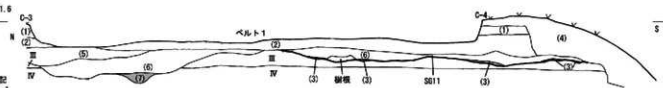
全体的な形は方形で、磨耗が激しい。両端の上部に抉りをもっているが、右側の抉りはやや浅めである。孔は施されていない。背部はやや曲面を有し、調整痕が残されている。刃部は直線的で、右下端は欠損している。



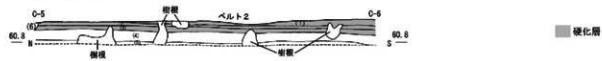
第59図 B区遺構分布図 (S=1/300)



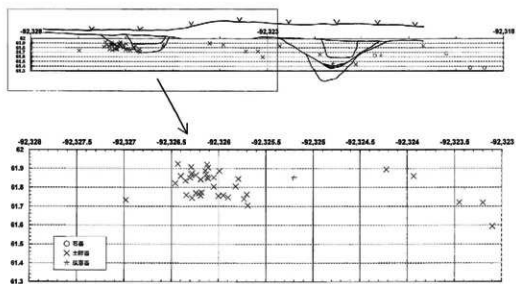
- 実層
- 1 緑色土1
 - 2 緑色土2
 - 3 Hae10TR 4/3 細かい黄褐色土。非常に柔らかく、上の緑まりが思い、明黄褐色の1~3mm程度の粒が確に混入している。
 - 4 Hae10TR 2/3 黄褐色土。上の緑まりが思い、粒が粒く、硬化した黄褐色のブロックが確に散らばっている。
 - 5 Hae7.0T 2/1 褐色土。非常に硬く固まり、ブロック状に割れる。



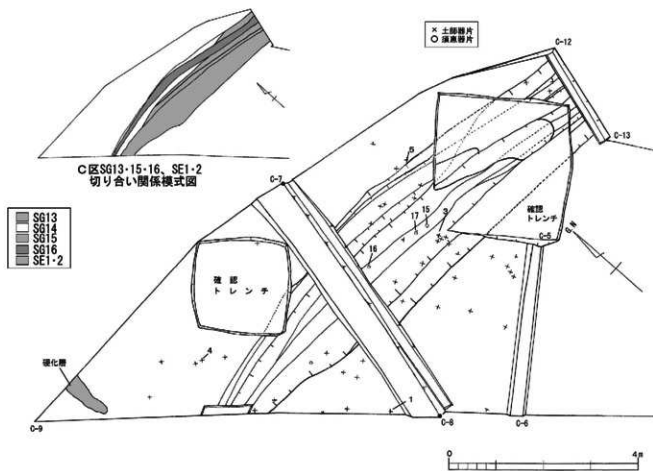
- C区SG11に関する土層図
- ベルト1
- 1 緑色土1
 - 2 緑色土2
 - 3 Hae7.0T 2/1 褐色土。非常に硬く固まり、ブロック状に割れる。
 - 4 緑土。土手側から土手外土。
 - 5 緑土。Hae10TR 2/1 黄褐色土。大小様々なアカホヤブロックが混入する。黄褐色の土が混入時に、黄褐色の土が混入時に入り込んでいる。
 - 6 緑土。Hae10TR 4/2 黄褐色土。大小様々なアカホヤブロック、炭化物。層上が混ざり合っている。材木等も確認し、土が混入している。
 - 7 Hae7.0T 3/2 黄褐色土。黄褐色の土が40%程度混入し、硬く固まっている。
- C区SG11に関する土層図
- (1) Hae10TR 2/1 黄褐色土。粘り強く、シルトに多い。0.1mm以下の白色砂を含む。
 - (2) Hae10TR 3/1 黄褐色土。非常に硬質な土。確化層。1mmほどの砂粒、明黄褐色のブロックが混入する。
 - (3) Hae10TR 7/1 褐色土。硬質な土。上面に古い緑色土。
 - (4) Hae10TR 2/1 黄褐色土。3mm程度の黄褐色の塊状のブロックが少量混入する。
 - (5) Hae10TR 2/1 黄褐色土。2mm程度の黄褐色のブロックが多量に混入する。強い腐敗を呈している。軟質な土。
 - (6) Hae10TR 2/2 黄褐色土。1mmほどの黄褐色の塊状のブロックがわずかに混入する。やや硬質な土。固清な土。



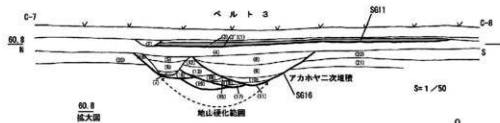
第63図 C区SG11に関する土層図 (S=1/40)



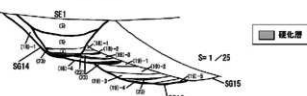
第64図 A1区古代以降遺物密集部分垂直分布図(東→西)



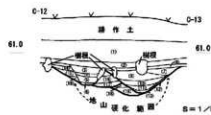
第65図 C区SG13~16、SE1・2平面図(S=1/80)



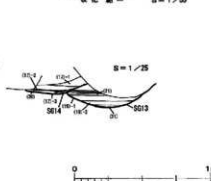
60.8
拡大図



60.8
拡大図



61.0
拡大図



C区ベルト3に関する注記

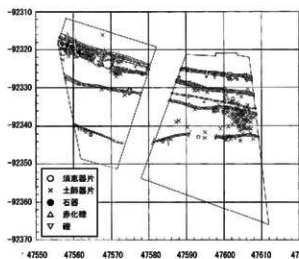
- (1) Bas1.013/2/1 黒褐色土
粘粒多く、3m以下は4、シルト質、やや軟質土。
- (2) Bas2.013/3/1 黒褐色土
粘粒多く、3m以下は4、シルト質、軟質土。
- (3) Bas2.013/2/1 黒褐色土
0.5cm以下の暗褐色のブロックがわずかに散らる。(暗化層)
- (4) Bas1.013/2/1 黒褐色土
1cm以下の暗褐色のブロックが散らる。0.5cm以下の砂影がわずかに散らる。(硬化層)
- (5) Bas1.013/3/1 黒褐色土
粘質土、やや軟質土。
- (6) Bas1.013/3/1 黒褐色土
粘土、やや黄色味を帯び、硬質土。
- (7) Bas2.013/4/1 黒褐色土
粘質土、1cm以下の白色粒が散らる。硬質土。
- (8) Bas1.013/2/1 黒褐色土
粘質土、やや軟質土。
- (9) Bas1.013/3/1 黒褐色土
粘質土、0.5cm以下の褐色の砂粒状のものが見える。硬質土で、裏に埋まっている。
- (10) Bas1.013/3/1 黒褐色土
粘質土、1cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが散らる。やや軟質土。
- (11) Bas1.013/4/1 黒褐色土
粘質土、1cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが散らる。やや軟質土。
- (12) Bas1.013/2/2 黒褐色土
粘質土、やや軟質土。
- (13) Bas1.013/2/2 黒褐色土
粘質土、やや黄色味を帯び、硬質土。
- (14) Bas1.013/3/2 黒褐色土
2cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが少量散らる。やや軟質土。
- (15) Bas1.013/3/1 黒褐色土
粘質土、2cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが散らる。硬質土。
- (16) Bas2.013/3/1 黒褐色土
粘質土、2cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが散らる。やや硬い硬質土を帯び、硬質土。
- (17) Bas2.013/3/1 黒褐色土
粘粒多く、軟質土。
- (18)-2 Bas1.013/2/2 黒褐色土
やや硬質で、3cm以下の灰黄褐色の硬化層が部分的に見られる。
- (18)-3 Bas1.013/2/2 黒褐色土
軟質土、1cm以下の灰黄褐色のブロックがわずかに散らる。
- (18)-4 Bas1.013/2/2 黒褐色土
やや軟質土、2cm以下の灰黄褐色のブロックが少量散らる。
- (19)-1 Bas1.013/4/2 灰褐色土
粘質土、1cm以下の暗褐色のブロックが少量散らる。(暗化層)
- (19)-2 Bas1.013/4/2 灰褐色土
粘質土、部分的に厚さ2cm以下の暗褐色の塊いブロックが見られる。やや硬質で塊い硬質。(暗化層)
- (19)-3 Bas1.013/4/2 灰褐色土
粘質土、2~3cm以下の暗褐色のブロックが多量に散らる。やや硬質で塊い硬質。(暗化層)
- (19)-4 Bas1.013/4/2 灰褐色土
粘質土、4~5cm以下の暗褐色のブロックが多量に散らる。やや硬質で塊い硬質。(暗化層)
- (19)-5 Bas1.013/3/3 暗褐色土
粘質土、1cm以下の暗褐色のブロックがわずかに散らる。やや硬い硬質。(暗化層)
- (20) Bas1.013/7/1 黒褐色土
粘質土、黄褐色粒が多量に散らる。上面から2cmまでは硬質であるが、下は軟質。
- (21) Bas1.013/6/6 暗褐色土
粘質土、黄褐色の砂粒状のものが見える。上面から2cmまでは硬質であるが、下は軟質。
- (22) Bas1.013/2/2 黒褐色土
2cm以下の灰黄褐色のブロックが散らる。上面が、やや硬い硬質を帯び、2cm以下の灰黄褐色のブロック散らる。

C区北壁土層図

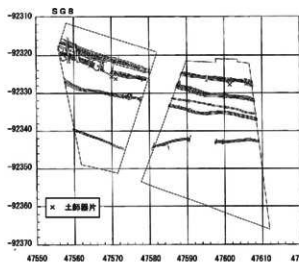
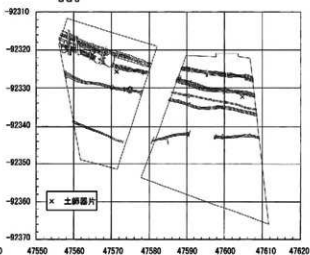
- (1) Bas1.013/4/2 灰黄褐色土
 - (2) Bas1.013/1/1 黒褐色土
 - (3) Bas1.013/3/2 黒褐色土
 - (4) Bas1.013/3/1 黒褐色土
 - (5) Bas1.013/3/1 黒褐色土
 - (6) Bas1.013/4/2 灰黄褐色土
 - (7) Bas1.013/2/2 黒褐色土
 - (8) Bas1.013/4/2 灰黄褐色土
 - (9) Bas1.013/2/2 黒褐色土
 - (10) Bas1.013/3/3 暗褐色土
 - (11) Bas1.013/3/3 暗褐色土
 - (12) Bas1.013/3/2 灰黄褐色土
 - (13) Bas1.013/3/4 灰褐色土
 - (14) Bas1.013/3/1 黒褐色土
 - (15) Bas1.013/3/2 黒褐色土
 - (16) Bas1.013/2/2 黒褐色土
 - (17)-1 Bas1.013/4/3に似た黄褐色土
 - (17)-2 Bas1.013/4/3に似た黄褐色土
 - (17)-3 Bas1.013/4/3に似た黄褐色土
 - (18) Bas1.013/3/2 黒褐色土
 - (19)-1 Bas1.013/4/2 灰黄褐色土
 - (19)-2 Bas1.013/3/2に似た黄褐色土
 - (20) Bas1.013/2/1 黒褐色土
 - (21) Bas1.013/4/4 黒褐色土
- 粘質土、1cm以下の黄褐色のブロックが少量散らる。やや軟質土で、粘性が低い。
粘質土、3m以下の4、シルト質。
粘質土、硬質土。
やや軟質土を帯び、硬質土。やや軟い硬質土。
1cm以下の灰黄褐色の軟質ブロックが少量散らる。
やや硬質土で、ブロックが埋まる。1cm以下の黄褐色の塊いブロックが少量散らる。裏面に硬質層をもつ。
やや硬質土。やや軟い硬質土を帯び、硬質土。
非常に硬質土で、ブロックが埋まる。硬化層はほとんどない。
硬質土。部分的に灰色の硬質ブロックが見られる。
表面の0.5cm以下の暗褐色の塊いブロックが少量散らる。やや軟質土。
1cm以下の暗褐色の塊いブロックが少量散らる。やや硬質で、塊い硬質土を帯び、硬質土。
2cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが散らる。塊い硬質を呈し、やや硬質土。
やや硬質土。
やや軟質土。1.5cm以下の灰黄褐色の塊いブロック層付道に少量散らる。
2cm以下の灰黄褐色の塊いブロックが少量散らる。やや軟質土。
粘粒状のものが見える。やや硬い硬質土を帯び、硬質土。
砂粒状のものが見える。部分的に厚さ2cm以下の暗化層のようなものが見られる。非常に硬質土。
(17)-3とはほぼ同じ色だが、より黄色味を帯び、裏面に硬質層が埋まっている。
粘質土、1cm以下の黄褐色の砂粒状のものが見られる。非常に硬質土。
粘質土、0.5cm以下の暗褐色のブロックが多量に散らる。裏面に埋まっている。硬質土。
粘質土、2cm以下の暗褐色のブロックが多量に散らる。裏面に埋まっている。硬質土。
1cm以下の白色粒を含む。硬化土。
1cm以下の黄褐色の砂粒状のものを含む。硬化土。

第66図 C区SG13~16, SE1に関する土層図 (S=1/50)

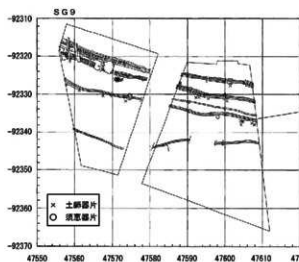
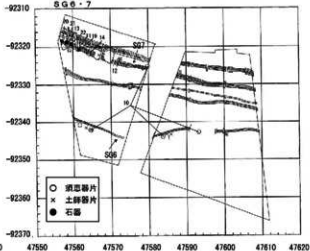
A区全出土遺物分布圖



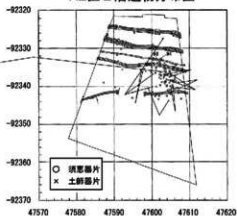
SG 3



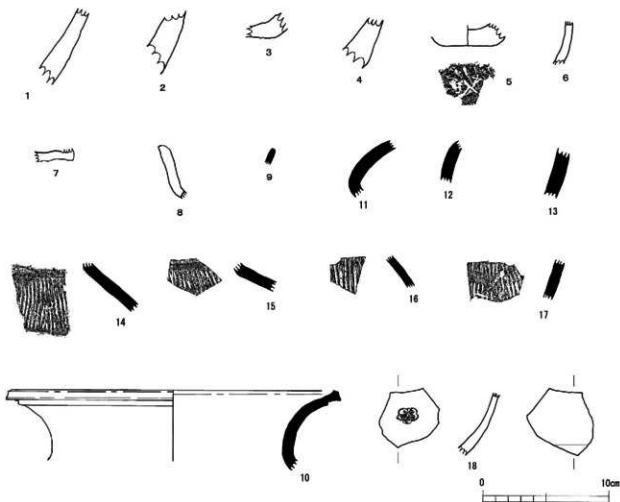
SG 8 - 7



A2区II層遺物分布圖



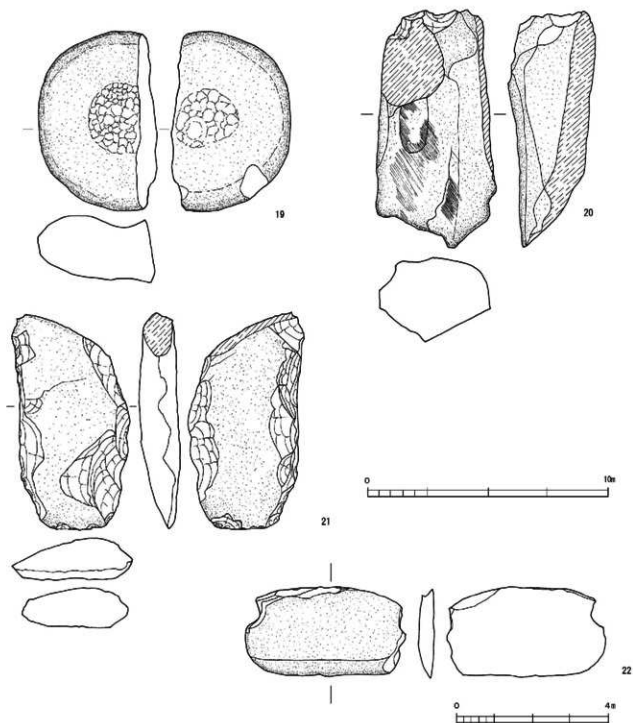
第67圖 A区遺構別遺物分布圖 (1/500)



第68図 道路状遺構出土土器実測図 (S=1/3)

調査 番号	時期	類別	形制部位	出土 地点	法 量 (cm)			形状・調査・文様ほか		色		土質の特徴	備 考	
					口縁	底 径	高 度	外面	内 面	外面	内 面			
1	古代	土師器	底部付近	C遺構外	-	-	-	新しい風化	な	で	にぶい橙	淡黄 橙	4cm以下の灰白色、褐色、灰色の砂状土を含む。	
2	古代	土師器	底部付近	S G 5	-	-	-	な	で	明 褐色	灰 色	4cm以下の褐色、赤褐色の灰、3cm以下の灰白土を含む。		
3	古代	土師器	底 部	S G 15	-	-	-	木の葉風	な	淡 黄 褐色	灰 質	4cm以下の灰黄緑色の砂状土を含む。		
4	古代	土師器	底部付近	C遺構外	-	-	-	新しい風化	な	で	にぶい赤褐色	灰 黄 褐色	2cm以下の灰白色、褐色、灰色の砂状土を含む。	
5	古代	土師器	底 部	C遺構外	-	4.4	-	正無	な	で	にぶい橙	橙	2cm以下の灰白色、褐色、灰色の砂状土を含む。	
6	古代	土師器	口 縁	A 2 II	-	-	-	工 具 痕	な	で	橙	橙	1cm以下の灰白色、褐色、褐色の砂状土を含む。	
7	古代	土師器	底 部	A 2 II	-	-	-	新	な	で	灰 にぶい黄緑	黄 緑	2cm以下の灰白色、黄褐色、赤褐色の砂状土を含む。	
8	古代	土師器	脚 部	A 2 II	-	-	-	土上の遺構目 工具痕 など	な	で	橙	橙	1cm以下の褐色、灰白色の砂状土を含む。	
9	古代	須恵器	口 縁	A 2 II	-	-	-	な	で	灰 緑	灰	灰オリーブ	精良	
10	古代	須恵器	口縁・胴部	S G 6・7	25.8	-	-	痕	な	で	灰	灰	にぶい黄白	精良
11	古代	須恵器	底 部	S G 7	-	-	-	工 具 痕	な	で	黄 褐色	灰 黄	灰 黄	精良
12	古代	須恵器	底 部	A 1 残丸	-	-	-	痕	な	で	黄 褐色	灰 黄	橙	精良
13	古代	須恵器	底 部	S G 7	-	-	-	痕	な	で	黄 褐色	灰 黄	灰	精良
14	古代	須恵器	底 部	S G 5	-	-	-	痕	な	で	灰	灰	灰	精良
15	古代	須恵器	底 部	S G 13	-	-	-	痕	な	で	灰	白 黄	灰	精良
16	古代	須恵器	脚 部	S G 13	-	-	-	平 行 叩 き	な	で	黄 灰	灰	灰	精良
17	古代	須恵器	脚 部	S G 13	-	-	-	平 行 叩 き	痕	な	で	灰 白 黄	灰	精良
18	近 世	磁 器	底 部	C遺構外	-	-	-	胎輪・擦面	灰 胎・五弁花	灰 白 色	灰 白 色	灰 白 色	精良	

第1表 道路状遺構出土土器観察表



第69圖 道路状遺構出土石器実測圖 (S=1/1、2/3)

図面番号	日記簿番号	区	出土地点	種類	器名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材
19	35	A	S G 7	石器	凹石	9.45	6.3	3.6	317.8	砂岩
20	31	A	S G 7	石器	礫石	12.6	6.3	4.3	433.1	砂岩
21	32	A	S G 7	石器	打撃石斧	11.3	6.25	2.2	176	砂岩
22	30	A	S G 7	石器	石包丁	3.6	6.3	0.6	34.4	ホルンフェルス

第2表 道路状遺構出土石器計測表

第4節 縄文時代の調査

A・B区の調査

A・B区ともに遺構は、全く検出できなかった。取り上げた石器剥片類は25点で、その組成は石錐1点、石鏃7点、台石4点、剥片11点、玩具石2点である。これらは、全てアカホヤ下のIV層・V層から出土しており、この二つの層を一つの文化層としてとらえた。遺物は縄文時代草創期～早期のものと思われる。剥片は、B区に集中するものの石鏃7点は、出土地点に偏りがなく、どの調査区からも出土している(第72図・73図)。また、石器剥片類全体としての利用石材については、黒曜石(40%)、チャート(12%)、流紋岩(12%)の遠隔地産系だけで64%を占めている(第76図)。

遺物

石錐(第76図23)

明瞭な基部の中央から短い身部をつくり出している。調整加工は、全体に及んでおり特に身部周辺は丁寧である。硬質な頁岩が石材として用いられている。

石鏃(第76図24～30)

石材は、黒曜石が6点、チャートが1点である。24は全体が二等辺三角形を呈し、基部中央に浅い抉りがある。25～29も、全体が二等辺三角形を呈しているが、基部にU字、V字状の抉りを施し、脚部を作り出している。いずれも先端部や脚部に欠損が見られるが、表裏ともに細かな剥離が施されている。30は、先端部・側縁ともに丸みを帯びている。基部中央には、浅い抉りがある。30のみチャート製である。

剥片(第76図31～41)

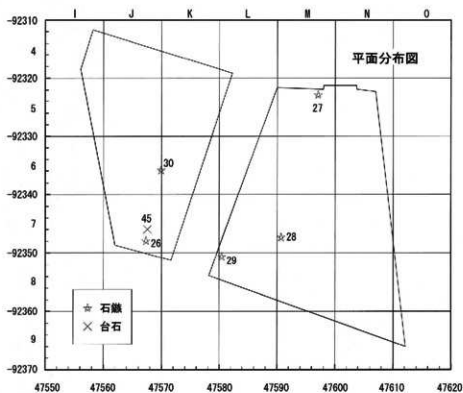
31～33、35は、調整の跡は見られず、ホルンフェルス製で風化が進んでいる。34、36は腰岳産の黒曜石であるが、36は腹面側より下縁に微細剥離が見られる。37、38は日東産の黒曜石である。37は、両側縁に腹面側より二次加工が施される。41は、腹面上部の右一側縁に刃潰しともとれる調整剥離が見られ、ナイフとして使用された可能性も考えられる。

玩具石(第76図42～43)

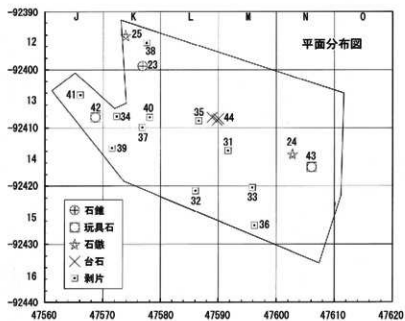
ともにチャートである。調整の痕は見当たらず、表面は光沢があつて、丸みを帯びてつるつるしている。

台石(第77図44～45)

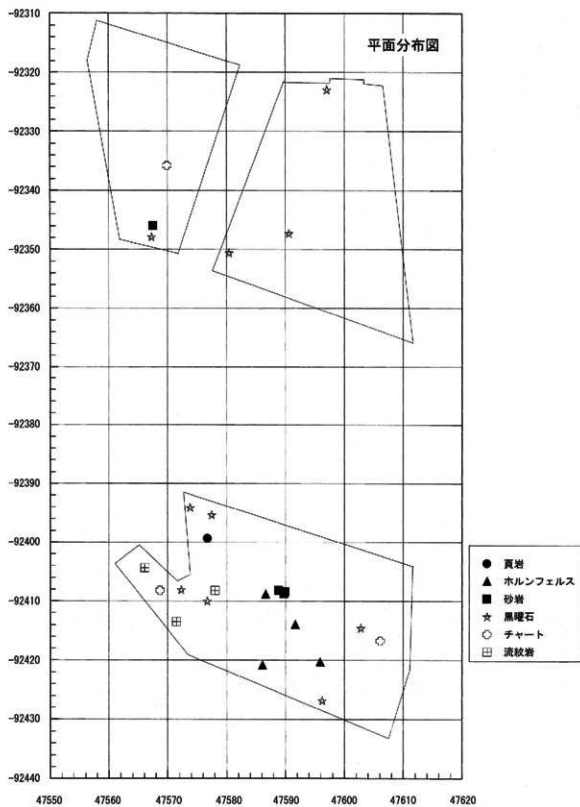
ともに砂岩で浅い窪みを中央部付近にもっている。



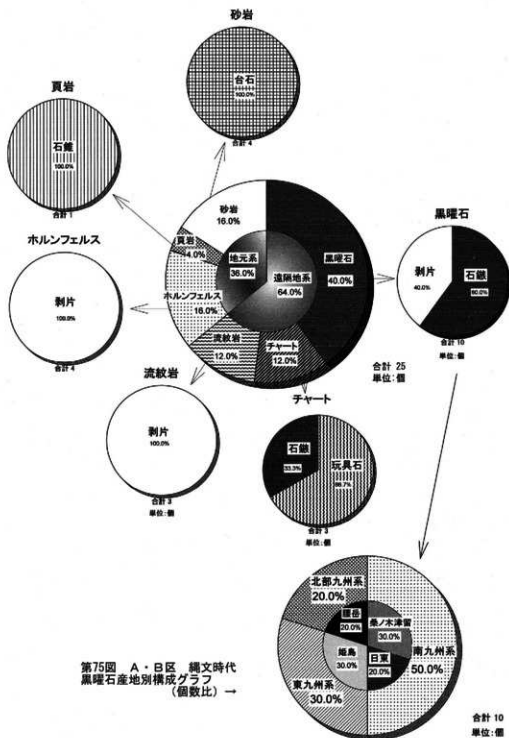
第71图 A1・A2区 縄文時代石器分布状況図



第72图 B区 縄文時代石器分布状況図



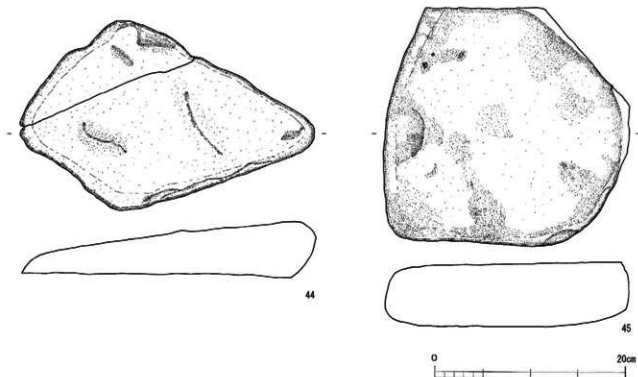
第73図 A・B区 縄文時代石材別分布状況図



第74図 A・B区 縄文時代器種別石材構成グラフ (個数比)



第76図 縄文時代草創期～早期石器実測図(1) (S=2/3)



第77図 縄文時代草創期～早期石器実測図(2) (S = 1/4)

原器番号	注記番号	区	グリップ	番号	種	種類	形種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	産地 石	材	国土地理 院標本 No	国土地理 院標本 No	レベル (m)
23	48	B	K	19	V	石器	石 鏃	3.00	3.95	1.20	9.7	頁岩		92389.368	47576.791	61.677
24	151	B	N	14	IV	石器	石 鏃	2.20	0.90	0.30	0.6	黒曜石 (糸ノ木津留)		92114.556	47602.792	61.948
25	195	B	K	12	V	石器	石 鏃	1.90	1.50	0.25	0.6	黒曜石 (糸ノ木津留)		92394.086	47573.877	61.300
26	7	A	J	7	IV	石器	石 鏃	1.80	1.10	0.30	0.7	黒曜石 (糸ノ木津留)		92347.908	47567.319	61.630
27	110	A	M	5	V	石器	石 鏃	1.80	1.80	0.49	1.7	黒曜石 (阿蘇)		92322.902	47597.073	61.706
28	1	A	M	7	IV	石器	石 鏃	2.40	1.80	0.43	1.2	黒曜石 (船高)		92347.279	47590.679	61.896
29	2	A	L	8	IV	石器	石 鏃	1.90	1.30	0.43	0.5	黒曜石 (船高)		92330.098	47580.457	61.737
30	3	A	J	6	IV	石器	石 鏃	2.00	1.30	0.30	1.1	チャート		92335.785	47569.914	61.638
31	171	B	M	14	V	石器	刮 片	3.00	2.10	0.50	4.6	頁岩ホルンフェンス		92413.920	47591.687	61.716
32	142	B	L	15	IV	石器	刮 片	5.60	2.30	1.30	14.1	頁岩ホルンフェンス		92420.825	47586.091	61.580
33	670	B	M	15	IV	石器	刮 片	3.90	2.70	0.60	9.5	頁岩ホルンフェンス		92470.291	47595.888	61.614
34	495	B	K	13	V	石器	刮 片	1.40	0.90	0.80	1.1	黒曜石 (鎌高)		92108.053	47572.337	61.500
35	39	B	L	13	V	石器	刮 片	6.60	3.30	1.49	21.8	頁岩ホルンフェンス		92108.822	47586.655	61.663
36	20	B	M	15	IV	石器	刮 片	1.80	2.20	0.79	2.2	黒曜石 (鎌高)		92426.803	47596.259	61.734
37	32	B	K	12	IV	石器	刮 片	1.60	1.70	0.50	3.0	黒曜石 (日東)		92109.943	47576.748	61.535
38	49	B	K	12	V	石器	刮 片	1.60	1.30	0.43	1.3	黒曜石 (日東)		92385.363	47577.490	61.590
39	497	B	K	14	V	石器	刮 片	1.90	1.90	0.50	2.6	流紋岩		92413.485	47571.534	61.468
40	27	B	K	12	IV	石器	刮 片	2.70	2.10	1.00	5.8	流紋岩		92408.183	47578.071	61.577
41	513	B	J	13	V	石器	刮 片	3.60	0.90	0.43	1.8	流紋岩		92404.351	47566.987	61.378
42	31	B	N	14	V	石器	刮 片	2.20	1.70	0.80	4.7	チャート		92416.760	47606.110	61.742
43	1	B	L	14	V	石器	台 石	18.30	8.10	4.20	1915.1	砂岩		92408.719	47589.780	61.721
44	3	B	M	13	V	石器	台 石	11.00	7.50	2.00	210.0	砂岩		92408.425	47590.927	61.737
44	10	B	L	13	V	石器	台 石	3.40	3.90	0.80	7.4	砂岩		92408.222	47588.935	61.720
44	375	B	J	13	V	石器	玩具石	1.95	1.85	0.95	3.7	チャート		92408.224	47568.697	61.471
45	671	A	J	7	IV	石器	台 石	27.00	24.50	76.50	7960.0	砂岩		92346.008	47567.549	61.392

第3表 湯牟田遺跡縄文時代石器計測表